世界と日本のハンドボールの違いについて



（財）日本ハンドボール協会常務理事・競技本部長　江成 元伸

インターネットの発達により、即座に世界のハンドボールの情報に触れることができる。しかし、大変残念なことに、世界と日本のハンドボールに違いがある。今回は、大会運営、競技運営にいくつかの違いがあるということを紹介したい。９月には念願のオリンピック出場をかけ、愛知県豊田市において北京オリンピックアジア予選が開催される。世界と日本のハンドボール文化のちょっとした違いを感じながら大会を観戦し、日本代表チームを北京に送り出して頂けるように応援をお願いする。

大会開催前日に、参加チームが一堂に集まる代表者会議が開催され、会議の最後に、全試合のユニホームが決定される。国内で見られる、試合当日のオフィシャル席前でユニホームを並べるという光景はない。日本では選手登録は締切日が決められており、それに基づきプログラムが作成されるが、国際大会は代表者会議の席上で確定する。背番号が申し込みリストと大幅に異なるということは、国際大会にとっては普通のことである。このことは、プログラムと背番号が違うというクレームに繋がる。日本の厚いプログラム製作ではこの問題は解決しない。日本で開催する国際大会では、プログラムの不備として捉えられることが多く、大会運営者として残念に思っている。日本の試合では、試合開始30分前にリストを提出させ、その後の変更を認めていないが、国際試合は１時間前にリストを提出し、怪我をすれば交代することが許されている。公式記録用紙は両チームの点数、個人の得点数、罰則数を記録することは変わらないが、日本はランニングスコアを記録することで試合の流れが確認でき、現状では変更するに及んでいない。ハンドボール用語も異なる用法をしている。45度がバックプレーヤー、サイドがウィングプレーヤー、ポストがピボットプレーヤーと称している違いがある。用語は長い年月をかけ定着していることから、修正するのには時間を要するであろう。

反面、今年度４月より、チーム役員にＡ～Ｄのカードを着用することとした。国際大会で実施している方法であり、すぐに実行できるので実施に踏み切った。

このように日本国内と国際試合とでいくつかの相違があるが、できるだけ早急にその違いを埋めていきたいと考えている。長い年月をかけてきた日本流には経緯があり、早急に変えるにはやや抵抗もあろうが、国際感覚を得るためにも、多くのハンドボール関係者に理解を得ながら、修正を図っていきたいと考えている。

日本代表全勝。北京オリンピックアジア予選へ弾みつける

豊田市ハンドボール協会　冨森 達人

9月に北京オリンピック男子ハンドボールアジア予選が行われる愛知県豊田市で、7月6日から8日の3日間にわたりジャパンカップが開催された。参加チームは日本代表、中国代表、エストニア選抜、日本リーグ選抜（イースト）の4チームで、総当り戦が行われた。優勝は全勝の日本代表、2位はエストニア選抜、3位は日本リーグ選抜で来年のオリンピック開催国である中国代表は全敗した。日本代表はスーパーエースの宮﨑大輔、新鋭ポストプレーヤーの富田恭介を怪我で欠き苦戦が予想されたが、キャプテン中川善雄を中心に、落ち着いた攻守を展開して見事に全勝を遂げ、アジア予選へ向けて弾みのつく結果となった。

対する海外チームは、若干の調整不足からか十分な力を発揮できずに終わった。特に中国代表は着実に力をつけてきた印象がありながら予想外の全敗を喫した。

日本代表・宮﨑大輔選手の怪我は、彼のプレーをひと目見ようと集まった観客を残念がらせ、全国のファンに不安を感じさせた。姿だけでも見たいファンも多くいたであろうが、日本代表チームは彼を愛知に連れてこなかった。あくまでも北京オリンピック予選を突破することに全てを賭け、彼を治療に専念させることを考えた日本代表チームの強い思いの表れである。北京オリンピック予選では彼の素晴しいプレーが見られることを期待している。

日本代表チームでも一際目立ったのが左腕・前田誠一である。海外チームの高いディフェンスを諸ともせずにあっさりとミドルシュートを決めてしまう。3試合を通じて非常にクオリティの高い働きであった。他にも2人のゴールキーパー、坪根敏宏選手と高木尚選手の活躍があった。タイプの違うゴールキーパーであるが、どちらがゴールを守っても安定感がありとても頼もしく感じた。

本大会、日本代表の仕上がりとともに注目されたのが日本リーグ選抜チームである。次世代の日本代表候補ともいえる若い選手を集めたチームが、数日間の合わせ程度の練習でどこまで頑張れるか「見物」であった。さすがに日本代表には歯が立たなかったが、エストニア選抜に食い下がりを見せ、中国代表からは見事に勝利をあげた。彼ら若い選手が、数年後の代表チームで活躍することを想像できるのもジャパンカップならではの楽しみと言ってよいだろう。

この大会は、9月1日から開催される北京オリンピック男子アジア予選のプレ大会として位置づけられており、大会運営サイドもアジア予選をシュミレーションした運営や会場設営を実施して、本番に向けた準備をひとつひとつ確認した。会場は今年4月に完成したばかりのスカイホール豊田。観客収容能力は5000人を超える大きな体育館である。その竣工記念として誘致されたジャパンカップでもあり、地元豊田市ハンドボール協会関係者も大会準備から一生懸命取り組んできた。名古屋市からはかなり離れた地であったが、日本代表の試合が見られるとあって県内全域からのハンドボールファンが集まった。

年間試合数や競技人口などで他の地域をリードし、国内の大きな大会の運営経験にも長けている愛知県ではあるが、さすがにオリンピック予選ともなると勝手が違う。県内の多くの関係者が集まり、いくつもの問題点を洗い出している姿があった。本番までの短期間で修正作業が進められる。

近年、日本リーグのプレーオフをはじめハンドボール会場がにわかに盛り上がりを見せている。レベルの高いプレーもあるが、試合以外のイベントも観客を喜ばせ盛り上がりにつながっているようだ。この大会には、ロックバンドと女性ボーカリスト、男性のソロミュージシャンが来場し、ハンドボールファンを楽しませた。

日本代表の全勝で終わったジャパンカップ。9月にはこの同じ場所で、たった1枚の北京オリンピック出場権をかけて日本を含めたアジア5カ国が競い合う。是非とも北京オリンピック出場をと願う全国のハンドボールファンの思いが叶うことを祈っている。

【最終順位】 1位　日本代表　　2位　エストニア選抜
3位　日本リーグ選抜　　4位　中国代表

戦　評

◆7／6（金）

エストニア選抜　26（11－14、15－7）21　中国代表

【戦評】エストニア選抜チームの一員・日本人GK吉田耕平選手の7mスロー阻止を含む好セーブもあり、26対21でエストニアがオープニングゲームを勝利で飾った。

日本代表　32（13－7、19－5）12　日本リーグ選抜

【戦評】エース宮﨑を欠いた日本代表だったが、14番東長濱のミドルシュートで先取し、試合の主導権を握る。ポスト・永島、サイド・豊田らの活躍で日本リーグ選抜との差を広めていった。一方、若い選手を揃えた日本リーグ選抜は、5－1ディフェンスからの速攻で追い上げるが、シュートをふかすシーンが目立ち、13対7の日本代表リードで前半を終える。

後半に入って、日本代表は5番・末松らの速攻で5連続得点し、試合を決定づける。その後も4番・前田のロングシュートなどで加点し、32対12の大差で完勝した。



◆7／7（土）

日本リーグ選抜　30（14 − 12、16 − 12）24　中国代表

【戦評】長身の選手を揃え、力強さが特徴の中国代表と、日本リーグで活躍する若手を中心とする日本リーグ選抜の対戦。スローオフは中国、日本リーグ選抜は２番・千々波をトップに置く５－１ディフェンスで守る。先制したのは中国、開始32秒、シュートミスのリバウンドを19番ミャオ・チンが拾い、右サイドからシュートを決めた。日本リーグ選抜はすぐに７番・岩永がロングシュートを決め同点、続いて２番・千々波、18番・内田の速攻でリードを奪う。その後、一進一退の攻防が続いたが、17分36秒、中国14番テン・ジェンシャの退場の間に、７番・岩永がサイドシュートを決め、日本リーグ選抜が３点リードした。日本リーグ選抜が主導権を握ったかに見えたが、中国GK22番イェ・チャンの好守にあい、６分以上無得点、中国が追い上げ12対14と２点差で前半を終了した。

後半は７番・岩永、15番・鶴谷も速攻で４点差にリードを広げるが、日本リーグ選抜の速攻のミス、中国３番ツー・ジェーのミドルシュートなどで後半18分すぎに20対21と中国代表が迫る。接戦となったが、23分、７番・岩永のパスから11番・猪妻がスカイプレーを決め、後半再び４点差、その後も11番・猪妻が連続得点し、試合を決定した。11番・猪妻の後半５得点の活躍で日本リーグ選抜が勝利を収めた。中国は延べ５人の退場者を出し、１人少ない不利な状況での戦いを強いられた。

日本代表　25（10 − 8、15 − 15）23　エストニア選抜

【戦評】初戦を快勝した日本代表の第２戦。相手は前日の中国戦で逆転勝ちをおさめ、勢いに乗るエストニア選抜。日本代表・下川のサイドシュートで日本代表が先制。その後もキャプテン・永島のポストシュートなどで５連続得点。エストニアもヴァルダルのミドルシュートで２点返すも、日本代表の固いディフェンスをなかなか崩すことができない。GK坪根の好セーブもあり、15分過ぎには８対２と日本代表が大きくリードする。エストニアもリズムを取り戻し、一進一退の攻防が続く。25分過ぎからエストニア選抜が４連続得点。10対８と日本代表の２点リードで前半を終了した。

後半は完全にリズムを取り戻したエストニア選抜のペースで試合は進んだ。後半６分過ぎにエストニア選抜に同点に追いつかれ、20分過ぎには３点のリードを奪われてしまう。このままエストニア選抜のリードかと思われたところから、日本代表は驚異的な粘りを見せる。残り１分を切ったところで、豊田のスカイプレーで同点。残り15秒、７mスローを豊田が決め、日本代表が劇的な勝利を収めた。

◆7／8（日）

エストニア選抜　28（13 − 11、15 − 15）26　日本リーグ選抜

【戦評】エストニア選抜のスローオフでスタート。日本リーグ選抜は速攻、ポストで先取したが、エストニア選抜の６－０ディフェンスをなかなか崩せず、得点を重ねることができない。エストニア選抜は日本リーグ選抜の３－２－１ディフェンスに対し、15番ノードラの配球からのブロックプレー、視野外からのプレーで加点した。15分過ぎに日本リーグ選抜のディフェンスが厳しくなり、エストニア選抜のパスがつながらず、日本リーグ選抜の速攻が続き、23分過ぎに同点に追いついた。しかしエストニア選抜は14番の若きエース・レップが３分で３本のロングシュートを決め、13対11と前半をリードした。

後半開始、日本リーグ選抜は前半からの退場が続き、苦しい立ち上がり。４連続得点を許し、18対13と差を広げられる。９分、エストニア選抜に退場が出ると、４連取で同点に追いつく。その後、一進一退の攻防であったが、前半の２点差のまま28対26でエストニア選抜が逃げ切った。日本リーグ選抜にとっては勝負どころで失点を防げなかった悔しい敗戦であった。

日本代表　28（12 − 12、16 − 7）19　中国代表

【戦評】３連勝を狙う日本代表は、立ち上がり何度もノーマークのチャンスを作るが、中国代表GKイエチェンのファインセーブに阻まれ苦しいスタート。中国代表がリードする。しかし６分過ぎ、門山のカットインを皮切りに４連取で逆転に成功。中国代表の大型攻撃陣のシュートをGK高木の好守とディフェンス陣の素早い詰めで封じ、主導権を握った。しかし18分過ぎから中国代表に４連取され再逆転される。その間、中国選手の２分間退場があったが活かしきれずに苦しい展開に。しかし29分、遂に香川のカットインで同点。その後両チーム１点ずつ取り合い、12対12の同点で前半を折り返した。

後半も前半同様、素早い出足で中国代表の攻撃をつぶしにかかる日本代表に対し、ツイリャンのポストプレーを連発させ、食い下がる中国代表。序盤は一進一退の攻防が続いたが、門山のミドル、下川のサイドシュート等で着実に加点する日本代表に対し、ＧＫ坪根の連続ファインセーブで17分の７mスローを最後に沈黙してしまった中国代表。最後は末松のカットインから神田のミドルシュートまで７連取で締めくくった日本代表が28対19で完勝し、優勝を決めた。

JAPAN CUP 2007 KUMAMOTO GAMES を開催して

熊本県ハンドボール協会事務局長　奥園 栄純

7月11日（水）から7月15日（日）の日程でJAPAN CUP 2007 KUMAMOTO GAMESを天草市、熊本市、山鹿市の3市で開催することができました。

この大会は1997年5月に本県で実施した男子世界ハンドボール選手権大会の開催10周年を記念して誘致した大会である。大会開催が実現の運びとなったのは、財団法人日本ハンドボール協会の多大なご支援とご理解によるものであり、この場をお借りし、心から感謝申し上げたいと思います。

あの本場ヨーロッパ以外で初めて開催された第15回男子世界選手権大会から早10年の月日が経ちましたが、諸々の課題が山積しながらも、半ば見切り発車的に大会誘致に踏み出した大会でありました。あの感動的な2週間は、大会の誘致、開催準備、大会運営にと丸5年の間、業務に携わらせていただいた私にとって、人生の宝といっても過言ではありません。

特に、今では伝説となっている決勝トーナメント1回戦の日本－フランス戦における熱戦、主会場であったパークドーム熊本の1万人の大観衆の興奮、自然発生的なウェーブによる熱気、その光景は今でも瞼に焼き付いています。

その10周年を記念して国際大会を開催することが、再びあの感動に県民の皆さん方に触れていただく機会となり、特に9月に愛知県豊田市で北京オリンピックのアジア予選を控えている日本代表チームの強化はもちろん、ハンドボール界全体の活性化に繋がればとの思いを込め、昨年度早々に熊本県ハンドボール協会として大会開催を企画しました。

大会は、7月10日の歓迎レセプションからスタートしましたが、世界選手権大会開催10周年に相応しい顔合わせが実現しましたので、ご紹介をしたいと思います。

まず一つめが、渡邉佳英日本協会会長と安田公寛天草市長です。詳細は省略しますが、世界選手権大会の熊本開催実現のまず種火を起こしていただいたのが、日本青年会議所で繋がりがあったこのお二人だったのです。そのお二人が、方や日本協会のトップとして、方や開催地の市長としてのツーショットが実現したのも何かの縁であるように思います。渡邉会長には御多用な中、遠路、天草までお運びいただき、本当にありがとうございました。



また、もう一つが、10年前に日本代表選手として活躍した4人の選手の顔合わせでした。地元天草市の本町中学校で体育教師をしている魚住和彦先生（本県JOC選抜の監督も務める）、JHL選抜の監督として大会に出場した中山剛監督、先日、前人未踏の日本リーグ1000得点を達成し、本大会にゲストとして参加してくれた本県出身の岩本真典選手、そして、現在もなお、日本代表の最年長選手として活躍している湧永製薬の山口修選手。この4人がステージに登場した時には、何とも言い難い、懐かしさとそれぞれの皆さんが現在もなお、いろんな形でハンドボール界において活躍されている事を大変嬉しく思いました。

このようにしてスタートした大会は、途中、台風による中止を余儀なくされるというアクシデントもありましたが、日本代表とJHL選抜がそれぞれ2勝をあげる活躍と、競技以外の場でも中国代表とエストニア選抜が地元の中学校との交流会に快く応じていただき、生徒達と気さくに接するなど大会を盛り上げ、開催した各市の関係者並びに県内のハンドボールファンも大変満足する大会となりました。

本大会の開催を契機として、熊本での世界選手権大会の開催が単なる思い出話になることなく、今後ますます日本ハンドボール界が発展し、北京オリンピックへの日本代表チームの出場に繋がることを心から祈念しております。

大会の開催にあたり、ご指導、ご助言をいただきました日本協会をはじめ、直前に大会を開催された愛知県、豊田市各協会の関係の皆様方に改めて感謝申し上げ、大会のご報告としたいと思います。

☆7/14（土）の2試合は、台風接近のため中止となりました。
　その結果、熊本大会では、順位決定を行ないません。

戦　評

◆7／11（水）

日本代表　30（16－13、14－13）26　中国代表

【戦評】天草市開催からスタートした「火の国決戦」は、中国のスローオフでゲームが開始された。中国代表がミャオ選手のロングシュートで先制すれば、日本代表も門山選手のロングシュートで応戦する。中国代表は、日本のコンパクトな3－2－1ディフェンスを攻めあぐね序盤を日本代表が4対1とリードする。中国代表はタイムアウト後、ポストプ

レーで攻撃の糸口を見いだし、速攻も決まりだして5連続得点をあげ試合を振り出しに戻した。しかし、最後は前田選手の2連続ゴールなどで前半を日本代表が3点リードで折り返した。

後半にはいると、日本代表は守って速攻のいい展開となり、また中国代表に退場者が出たことも手伝って、点差を徐々に開いていった。しかし、試合が決まりかけてきた中盤から中国代表もポストプレーを中心に反撃し、点差を縮めていった。ただ後半運動量が落ちてきた中国代表はミスが目立ち始め、日本代表が速攻で得点するシーンが多くなった。中国代表も、ツイ選手のこの試合14点目となるポストシュートで最後まで応戦するが、結局4点差で日本代表が逃げ切り1勝目をあげた。

【日本の得点】 前田5，門山5，永島4，香川4，末松3，東3，豊田2，下川2，中畠1，武藤1

◆7／12（木）

JHL選抜　39（19－12、20－15）27　エストニア選抜

【戦評】天草大会の2日目はJHL選抜のスローオフでゲームがスタートした。JHL選抜は7mスローを獲得すると、地元熊本出身の野嶋選手が先制のゴールを決めた。エストニア選抜もポストへのパスを試みるが、タイミングが合わず、序盤はJHL選抜のペースで試合が進んだ。その後も高さで劣るJHL選抜はポスト、サイドと多彩な攻めを繰り広げ、守っても GK 松村選手の再三のファインセーブでエストニア選抜へ傾きかける流れを引き止めた。JHL選抜は中盤、メンバーを総入れ替えし、ディフェンスもアグレッシブな3－3ディフェンスへ変更。積極的によく動くJHL選抜はマイボールから速攻が冴え、逆にエストニア選抜は足が止まってしまい、点差が徐々に開いていった。

後半に入っても、JHL選抜のペースで試合が進んだ。対するエストニア選抜もラトセップ選手の豪快なロングシュートや、ノードラ選手の速攻などで点差を縮める。しかしここでエストニア選抜に連続して退場者が出て、つかみかけた流れを引き寄せることができなかった。エストニア選抜はGKナウム選手が攻撃に参加し得点するなどチームを盛り上げるが、JHL選抜も速攻からスカイプレーを決めるなど余裕の試合運びで、終盤、運動量が落ちたエストニア選抜に対し、最後まで元気いっぱいのJHL選抜が12点差で勝利した。

【JHL選抜の得点】泉原5，村上直5，村上秀5，桜井5，藤山5，野嶋4，福田3，中谷2，前田2，横地1，新1，鶴田1

◆7／15（日）

JHL選抜　35（17－12、18－13）25　中国代表

【戦評】ゲームの序盤、JHL選抜が10番・藤山のミドルシュートで先制すると中国は、3番ツー・ジェーのミドルシュートで入れ返すなど互いに点を取り合う展開が続いた。しかし、スピードで上回るJHL選抜は、4－2ディフェンスで、できるだけ高い位置で当たり、GK松野の好セーブもあって、次々に速攻につなげ開始10分で10対5と5点差をつける。中国は、JHL選抜の4－2ディフェンスをなかなか崩せない状態が続いたが、8番チャオ・シャオジェンのポストプレーが機能し始めて点差を詰める。しかし、今度はディフェンスで足が止まったところをJHL選抜に攻め込まれ、退場者もあり、前半はJHL選抜が17対12の5点差で折り返す。

後半立ち上がり、中国は厳しいフットワークでJHL選抜の攻撃を封じると、セットオフェンスでも立て続けに点をとるなど幸先の良いスタートを切った。しかし、中国は、スタミナが長続きせず再度足が止まったところで、JHL選抜5番・前田、13番・新の両サイドプレーヤーの角度のないところからの跳び込みで加点されると、集中力も途切れ徐々にペースを乱し始める。その後、ラフプレーで失格者もでるなどして大きく突き離され、結局JHL選抜が終始リードを保ち35対25の10点差で勝利した。

【JHL選抜の得点】藤山7，村上秀6，桜井4，新4，泉原3，村上直3，前田2，横地2，海道2，野嶋1，中谷1

日本代表　37（20－9、17－16）25　エストニア選抜

【戦評】高さのあるエストニア選抜に対して、日本代表は5－1ディフェンスで対抗。ゲームの序盤は、日本代表のディフェンスシステムが機能し、3番・豊田の連続速攻などで3点を連取し、幸先良いスタートを切った。日本代表の速い動きに攻めあぐねていたエストニア選抜であったが、5分過ぎから2番ノードラ・ヴァルダーのポストプレーが有効に機能し始めると、15番ノードラ・マルティンのミドルシュート、7mスローなどで点差を縮めた。しかし、ラフプレーで2度にわたり退場者を出すと、日本代表の20番・門山のミドルシュート、9番・永島のポストプレー、13番・下川のサイドシュートなどの多彩な攻撃を守れず、20対9のスコアで日本代表リードで前半を折り返す。

後半に入ると、エストニア選抜は、ディフェンスの厳しいチェックとGK24番・吉田の好セーブで日本代表の得点を止めると、オフェンスでは、2番ノードラ・ヴァルダーのポストシュート、4番クーラ・マーラインのサイドシュートなどで追い上げ体勢に入る。一時は8点差まで詰めたエストニア選抜であったが、ディフェンスのチェックが少しずつ遅れ始めると、日本代表4番・前田、20番・門山にミドルシュートを決められ37対25で日本代表が終始大量リードを保ち勝利した。

点差は開いたが、最後までエネルギッシュにプレーしたエストニア選抜の健闘と、出場時間は15分程度であったが、その間に7点をあげた日本代表No.11岩永のプレーに将来性を感じさせるものがあり内容のあるゲームだった。

【日本の得点】 岩永7，前田6，門山6，豊田4，永島4，香川3，末松2，神田2，東1，下川1，中畠1

－速報－

平成19年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第58回全国高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

優勝・北陸高校

準優勝・県立藤代紫水高校

出場校（左ブロック）

県立藤代紫水高校（茨城）
興南高校（沖縄）
県立四日市四郷高校（三重）
県立北村山高校（山形）
県立屋代高校（長野）
修道高校（広島）
県立飯南高校（島根）
祐誠高校（福岡）
明星高校（東京）
此花学院高校（大阪）
県立鹿児島工業高校（鹿児島）
県立高知南中・高校（高知）
東明館高校（佐賀）
育英高校（兵庫）
県立境高校（鳥取）
國學院大學栃木高校（栃木）
仙台商業高校（宮城）
県立新潟江南高校（新潟）
熊本国府高校（熊本）
県立不来方高校（岩手）
浦和学院高校（埼玉）
県立松山工業高校（愛媛）
県立彦根翔陽高校（滋賀）
岡崎城西高校（愛知）

出場校（右ブロック）

県立岩国工業高校（山口）
横浜創学館高校（神奈川）
高山西高校（岐阜）
県立福島東高校（福島）
県立小林工業高校（宮崎）
県立奈良北高校（奈良）
東京学館高校（千葉）
県立小松明峰高校（石川）
県立大分雄城台高校（大分）
県立香川中央高校（香川）
青森山田高校（青森）
府立洛北高校（京都）
県立氷見高校（富山）
県立紀北農芸高校（和歌山）
静岡市立清水商業高校（静岡）
佐賀清和高校（開催地）
県立城南高校（徳島）
駿台甲府高校（山梨）
長崎日本大学高校（長崎）
県立湯沢高校（秋田）
岡山理科大附属高校（岡山）
県立富岡高校（群馬）
北海道札幌真栄高校（北海道）
北陸高校（福井）

試合結果

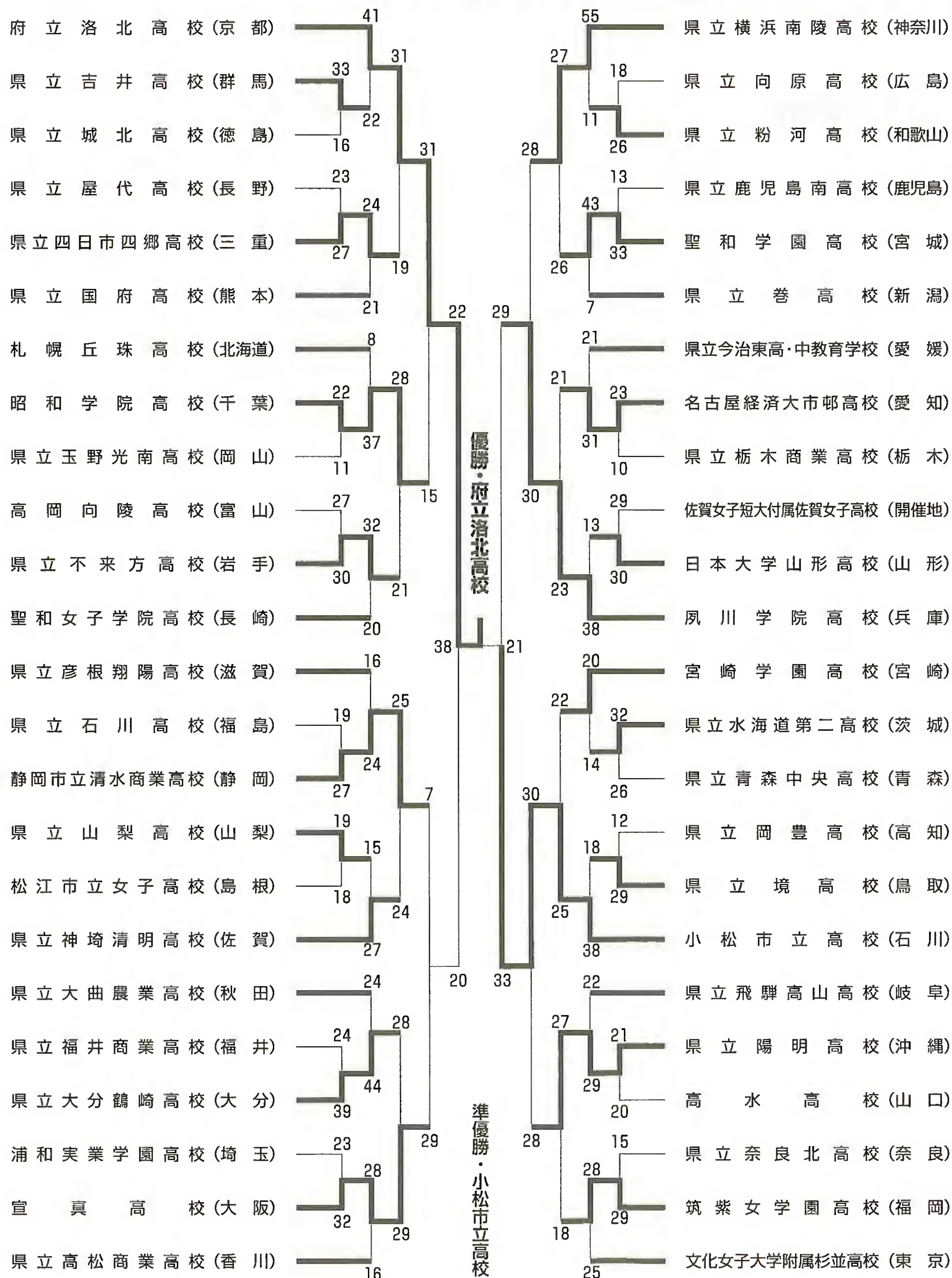
回戦	対戦	スコア
1回戦	興南 – 県立四日市四郷	42 – 24
1回戦	県立北村山 – 県立屋代	17 – 32
1回戦	祐誠 – 明星	22 – 29
1回戦	此花学院 – 県立鹿児島工業	32 – 22
1回戦	育英 – 県立境	33 – 25
1回戦	國學院大學栃木 – 仙台商業	31 – 28
1回戦	県立不来方 – 浦和学院	31 – 28
1回戦	県立松山工業 – 県立彦根翔陽	27 – 28
1回戦	横浜創学館 – 高山西	34 – 38
1回戦	県立福島東 – 県立小林工業	16 – 40
1回戦	県立小松明峰 – 県立大分雄城台	31 – 37
1回戦	県立香川中央 – 青森山田	39 – 20
1回戦	県立紀北農芸 – 静岡市立清水商業	28 – 18
1回戦	佐賀清和 – 県立城南	47 – 16
1回戦	県立湯沢 – 岡山理科大附属	38 – 27
1回戦	県立富岡 – 北海道札幌真栄	32 – 27
2回戦	県立藤代紫水 – 興南	38 – 23
2回戦	県立屋代 – 修道	28 – 19
2回戦	県立飯南 – 明星	15 – 57
2回戦	此花学院 – 県立高知南中・高	34 – 21
2回戦	東明館 – 育英	26 – 31
2回戦	國學院大學栃木 – 県立新潟江南	37 – 30
2回戦	熊本国府 – 県立不来方	23 – 32
2回戦	県立彦根翔陽 – 岡崎城西	14 – 33
2回戦	県立岩国工業 – 高山西	31 – 33
2回戦	県立小林工業 – 県立奈良北	36 – 19
2回戦	東京学館 – 県立大分雄城台	34 – 31
2回戦	県立香川中央 – 府立洛北	19 – 26
2回戦	県立氷見 – 県立紀北農芸	33 – 17
2回戦	佐賀清和 – 駿台甲府	23 – 36
2回戦	長崎日本大学 – 県立湯沢	37 – 32
2回戦	県立富岡 – 北陸	30 – 50
3回戦	県立藤代紫水 – 県立屋代	36 – 19
3回戦	明星 – 此花学院	31 – 28
3回戦	育英 – 國學院大學栃木	36 – 23
3回戦	県立不来方 – 岡崎城西	37 – 31
3回戦	高山西 – 県立小林工業	28 – 33
3回戦	東京学館 – 府立洛北	31 – 46
3回戦	県立氷見 – 駿台甲府	33 – 23
3回戦	長崎日本大学 – 北陸	29 – 45
準々決勝	県立藤代紫水 – 明星	46 – 27
準々決勝	育英 – 県立不来方	27 – 38
準々決勝	県立小林工業 – 府立洛北	29 – 27
準々決勝	県立氷見 – 北陸	23 – 36
準決勝	県立藤代紫水 – 県立不来方	43 – 24
準決勝	県立小林工業 – 北陸	25 – 38
決勝	県立藤代紫水 – 北陸	32 – 38

－速報－

平成19年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第58回全国高等学校ハンドボール選手権大会

女子の部



安東国際女子ハンドボール大会

日本は2勝2敗で第3位

■最終順位

1位　韓　国（4勝）
2位　ロシア（3勝1敗）
3位　日　本（2勝2敗）
4位　中　国（1勝3敗）
5位　ウクライナ（4敗）

団　長　西窪勝広

女子日本代表チームとして、韓国安東市で開催された国際大会に参加した。

ロシア代表、ウクライナ代表、中国代表、韓国代表、日本と5チームでのリーグ戦方式で開催された。

日本チームにとっては北京オリンピックアジア予選の前哨戦として、韓国戦の内容、カザフスタンを見据えた大型チームのロシア、ウクライナ、中国に対してここまで強化した内容の各成果を確認する意味で意義のある大会である。このことはスタッフ、選手も自覚し臨んだ大会であった。

結果的に日本は最終戦中国代表に勝利し、2勝2敗で3位となり、韓国がロシアに勝利し優勝で終了した。

最終戦の中国との戦いでは、最後までチームが一丸となり、日本チームが強化してきた内容が表現できた評価すべき戦いであった。アジア大会に続き今回中国に勝利したことは今後の対中国に対する大きな自信になったことは間違いないと確信している。

今大会では初戦の韓国戦が重要な戦いであったが、8点差の黒星でのスタートとなった。

ベルト・バウワー監督就任以来最も時間をかけたのはコンパクトな6－0DF、速攻でのボール運び、攻撃でのシステム化であり、特に6－0DFから3－2－1DFへの変化には重点を置いての強化を行ってきた。確かに戦略、戦術に関する選手への浸透は間違いなく強化されていることは事実であるが、初戦の韓国戦に関してはベンチと選手とのコミュニケーション不足が強く感じ取れた。

韓国戦後のミーティングでもこの内容に時間をかけて話し合い、残りの3試合では一つになった戦いに変わったことは評価したい。

しかし、予選で直接戦う韓国との8点差は真摯に受け止め、課題解決に取り組まなければ厳しい内容になることは私も含め全員が痛感している。

大会運営は、韓国協会、安東市がタイアップし、大韓航空をスポンサーとし連日テレビ中継も入り盛大なものであった。特にAHFのTawakoli氏を招聘し運営に参画させている姿勢は、オリンピックにかける韓国協会の強い姿勢を感じ取れた。

コーチ　藤本　元

平成19年7月15日から20日まで韓国の安東市で開かれた安東国際大会に参加した。韓国はオリンピック出場を目指し、アジア大会から監督を代え、ベテランを集めてチームを再編成した。ロシアは、前回の世界選手権優勝メンバーをもとにした強豪である。北京オリンピックに向け中国は、4月より前大同特殊鋼監督の姜氏を迎え、大々的に強化を行っている。ウクライナは、先日の世界選手権予選でデンマークを破り、世界選手権の切符を手にした。今回は、若手選手中心のメンバーに数名のナショナル選手を混ぜた構成である。

日本チームは、韓国、ロシアに敗れはしたものの、ウクライナ、中国に勝ち、3位という結果であった。勢いのある中国に対し、6－0防御で相手の攻撃を封じ、常に日本ペースでゲームを進めて勝利したことは、日本チームの地力が上がってきていることを裏付けていよう。ロシア戦でも主導権を握り、後半残り7分まで同点の接戦であった。今大会でも、固定されたメンバーではなく、ゲームの局面、大会中のコンディションによって、選手を交代させ、狙いをもって起用した。その中で、若手の植垣選手、藤井選手が機能し、日本チームにとって好材料となった。

ただし、初戦の韓国戦は、集中力がなく、勢いのない試合となってしまった。確かに勢いのある若手と百戦錬磨のベテランで編成された韓国チームは、今大会でも優勝したように、非常に力を感じるチームであった。しかし、オリンピックを目指す日本チームとしては、不甲斐無い戦いであった。韓国戦後、ミーティングを開き、個人の意思と責任をもとに、コミュニケーションを大切にチームとして戦うことを確認した。この後のゲームからは、そうしたチームの凝集性が発揮され、結果につながった。

もうひとつ課題といえは、ウクライナ戦の後半のようにロングシュートとポストのコンビネーションで防御が後手に回ったときの対応があげられよう。オリンピック予選で対戦するカザフスタンは、今回対戦したロシア、ウクライナと同じロシア型のチームである。ロシア型のチームに対し、コンパクトでピストンのある防御により、十分に対応できたが、後手になったときに修正ができなかった。より研ぎ澄まされたゲームリーディングと、防御での接触の激しさが必要であるのと同時に、攻撃でもテンポが落ちないことが重要となろう。

戦　評

韓国　36（19 － 11、17 － 17）28　日本

早船、水野の連携から目の覚めるような速攻が決まり、日本が先制。直後に韓国 21 番 Hong 選手が 7m スローを獲得。自らシュートを決めた。終始、日本チームはこれまで育ててきた攻撃のシステムを確認するため、センターの長野を中心に組織だった攻撃を心がけた。しかし、ボールハンドリングのミスや簡単なテクニカルミス、さらに、微妙なパスのタイミングのずれなどによって、なかなか日本本来の攻撃をすることができなかった。前半終了間際に簡単なミスから相手の連続得点を許してしまい、11 対 19 の 8 点差で前半を折り返した。

後半は 9 点差をあけての点の取り合いが続いた。安全圏であると判断した韓国はメインメンバーをベンチに下げ、若手をコートに送り出した。韓国にペースを握られたまま、煮え切らない展開が続いた日本チームではあった。しかし、植垣選手や藤井選手といった若い選手がシャープなシュートを韓国ゴールに打ち込み、多くの得点を挙げた。植垣選手自身、「競った試合の時と点差が開いた試合ではディフェンスのプレッシャーが違うので、必ずしも納得はできない」とコメントしていたが、日本チームの得点源として期待できるであろう。結果的には前半の点差がそのまま後半に響く形で、28 対 36 でのタイムアップとなった。

【得点】　植垣８、谷口４、大前・佐久川３、
　　　　水野・小松・藤井２、小野澤・長野・早船・金城１

ロシア　38（13 － 14、25 － 18）32　日本

大会２日目の対戦相手は、現在世界チャンピオンのロシアである。身長、体格を生かした組織的な防御と攻撃に加え、素早い速攻が持ち味のロシアに対し、日本もポストをマークするためにコンパクトでありながら、真ん中のピストンを激しく行う防御から、素早い攻撃で相手にプレッシャーをかけることを目標にゲームに臨んだ。前半 13 分すぎ、長野の果敢なカットインで７ｍスローを獲得したのをきっかけに、流れが日本に傾いた。佐久川の速攻や植垣のミドル、さらには相手ディフェンスの退場を伴う７ｍスロー獲得などで得点を重ね、前半残り５分の時点で 12 対 12 の同点となった。日本チームは３度もの退場を負いながらの前半であったが、一時は５点のビハインドをきっちり取り返し、さらに１点リードの 14 対 13 で後半を迎えた。

後半も日本チームは攻撃の約束事項を確認し、チームとしての攻撃に徹した。さらにディフェンスもよく機能し、ライン際の攻防から退場者を出すものの、バックコートプレイヤーへのプレッシャーにより、ロシアの攻撃を分断した。後半残り７分の時点で 29 対 29 の同点であり、１点を争う緊迫したゲームであった。しかしその後、集中力の欠如かディフェンスの戻りが遅れ始め、さらにミスも重なってロシアに速攻を許してしまった。結果的に終盤の戦い方が明暗を分け、32 対 38 でのタイムアップとなった。

【得点】　植垣８、田中７、佐久川６、小松・谷口３、
　　　　長野・山田２、金城１

日本　27（16 － 7、11 － 17）24　ウクライナ

大会３日目は昨日に引き続きロシア型のハンドボールを特徴とするウクライナとの対戦であった。試合前日のミーティングではビデオ分析を活用し、攻守両面での綿密な対策を立てた。

前半は田中美音子のゲームリーディングが光った。必要に応じた緩急の調節と、ダイナミックかつ素早い攻撃でウクライナディフェンスを翻弄した。守りでは体格面でのハンデを計算し、コンパクトで密なディフェンスをベースにシュートに対しては果敢に接触する守りでウクライナの得点を抑えた。さらに、飛田、勝田の両ゴールキーパーのファインセーブも光った。前半終了時点で 16 対７の大量リードを奪った。

後半に入り 10 分経過したころ、前半の良いリズムが少しずつ崩れ始めた。さらに、ライン際の攻防により退場者が連続してしまい、苦しい展開となった。前半の大量リードに守られる形で、なんとか混乱することなくゲームを展開することができたが、点差は徐々に縮まってゆき、後半 20 分の時点で４点差となった。ここで日本に落ち着きを取り戻したのは、やはり田中美音子選手であった。自らのステップシュートと相手ディフェンスの退場を誘うポストへのパスで、最終的なゲームの流れを日本側に呼び込み、27 対 24 でタイムアップを迎えた。

後半、相手にリズムが移ってからの攻防に課題が残るが、ミーティングで確認した事項を徹底すれば、たとえウクライナほどのチームであろうとも、結果を残す力があることがわかった。

【得点】　田中８、早船５、金城４、水野・東濱・植垣２、
　　　　大前・佐久川・谷口・藤井１

日本　26（11 － 10、15 － 14）24　中国

大会最終日は中国と対戦であった。日本は中国の高いディフェンスをくずすため、ボールを持たない選手がディフェンス裏を空走りする戦術を徹底した。その上でこきみの良い球回しとダイナミックなクロスで、コンスタントに得点を重ねた。また守りでは、長身の中国に対してコンパクトな６－０ディフェンスを敷き、的確なピストン運動で中国のオフェンスを分断した。明らかに身長で劣る日本に対してなかなか得点できない中国は、かなりのフラストレーションが溜まっていたようで、オフェンスでのミスが多発した。前半は常に日本が１、２点リードしてゲームが進む展開となった。点差はあまり大きいものではなかったが、日本チームはあわてることなく、ミーティングで確認した点を着実にこなしていき、11 対 10 の１点差で前半を折り返した。

後半は藤井選手の鮮やかなディスタンスシュートで始まった。この得点を皮切りに、後半 20 分までに日本はリードを６点までひろげた。本大会を通じての課題に後半の試合運びがある。この試合も後半 20 分過ぎに退場がかさんだことや、攻めあぐねたことで中国の追い上げにあったが、攻めのシステムの中で藤井や田中のシャープなシュートにより、中国の追い上げを許さなかった。最終得点は 26 対 24 であった。

【得点】　田中・藤井７、東濱３、小野澤・水野・大前２、
　　　　小松・長野・谷口１

第９回女子ジュニアアジア選手権（WC2008 予選）

標記大会が、2007年7月1日（日）～7日（土）の日程で、カザフスタン・アルマトイにて行われた。参加国は7ヶ国（Aグループ:韓国、中国、チャイニーズタイペイ、イラン、Bグループ：日本、カザフスタン、カタール）で、本大会の第１位から第４位は、2008年7月21日～8月3日に開催の女子ジュニア世界選手権のアジア代表権を獲得した。

［最終順位］１位　韓国
２位　カザフスタン
３位　チャイニーズタイペイ
４位　日　本

第９回女子ジュニアアジア選手権を振り返って～日本代表の戦い方

U-20女子日本代表ヘッドコーチ　東江正作

１．ディフェンスシステム

（1）６－０　ポスト、カットインをさせない（ディスタンスは１人詰めて手を挙げてOK）
①コンパクトに全体移動
②２枚目の外へ方向付け
③９m内はプレイさせない（優先順位はボール）
④激しいピストン、牽制（特に２枚目、10mまで）

（2）５－１　トップが攻撃のリズムを断つ（増田）
①２枚目は９mまでピストン
②ポストにボールが渡ったら２人以上でdead
③トップは激しい運動量が必要
④ sideディフェンスはバックコートプレイヤーが９mでキャッチした場合はattack

（3）４－２　トップが攻撃のリズムを断つ（増田、石野、岡本）
①２枚目は外へ追いやる（作内、池之端、塩田、鳥飼）
②トップのマークが外へ行ったら２枚目とスイッチ
この場合トップはポストをマーク
③ sideディフェンスはバックコートプレイヤーが９mでキャッチした場合はattack
④ OFがセンタースリーでセンターが中央突破を試みた場合トップ２人で確実にdead
⑤中間ポストはトップとボールをパスした方の２枚目でdead

２．オフェンスシステム（連動し継続）

（1）side crossからパラレル、バックコートプレイヤーとCenter cross、orポスト
（2）ダブルになった瞬間からの展開
（3）これらを生かすのは、強い縦

このような、DF, OFシステムを全員が共通理解し、60分間質の高いプレーを連動し継続することをチームの方針とした。最も重要なのは戦う姿勢（100%ファイトする）ことであった。しかし、カザフスタン戦で不可解な笛もあり、心身ともバランスを崩す選手がいて、最後まで立て直すことが困難であった。今の日本の選手にこの様なジャッジに対応するには、「これでもか、これでもか」といく強い精神力が不可欠である。

現状の代表チームの強化合宿では、システムを理解し、100%ファイトすることを掲げているが、それはフェアーな状態で発揮できることであった。ユースのアジア予選、ヨーロッパ遠征、世界選手権、チェコでのインダストリアルカップ、そして今回のジュニアアジア予選と、これまでにないキャリアを積んだ選手たちだが、そういう意味では無防備な状態で大会に臨んだといわざるを得ず、必死に立て直そうとしていた選手たちを責められない。

この経験を今後どう生かすか、いや絶対に生かさないといけない。選手はそれに対応できる「強い心」を持つことと確信している。幸いにも、08年世界選手権の切符は得たので、この悔しさをバネに一回りもふたまわりも大きく成長することであろう。そして、チーム内で厳しい競争を繰り広げ、激しい闘争心と自立心、相手をリスペクトできる心を持った真の日本代表に成ることを私自身が一番期待している。

カザフスタンでは、経験豊富な竹野団長からの叱咤激励や選手の体調管理に深夜に及ぶケアをして頂いたドクター、トレーナーに頭が下がる思いです。そして、リーグ戦直後やインターハイ前の大事な時期に選手を快く送り出して頂いた各チームの監督・関係者に感謝申し上げます。

アジア予選は不本意な成績でしたが、世界選手権では必ずリベンジを誓って報告とさせて頂きます。

第９回女子ジュニア選手権を終えて

№9　石野 実加子

この大会で、本当にたくさんの経験をした。悔しい思いをいっぱいした。いっぱい悔し涙を流した。そして、自分の力の無さを本当に感じた。そして、もっと強くなりたい。本当に本当に勝ちたいと思った。

チームもまだまだ未熟だったと思う。一人一人思うことはいっぱいあったはず。しかし、それをぶつけ合うことができなかった。その場を私が作ることもできなかった。まだまだ遠慮があった。そこにチームの粘りが出てこなかった原因があるのだと思う。本当に後悔した。

後悔することばかりで、自分はとても情けないと思った。

だからもっと強くなる。なりたい。自立した人に。子供じゃ戦っていけない。甘えなんかいらない。

ヘッドコーチが自分たちに求めていた「自ら考え行動する」日本のジュニア代表としての自覚を持ち、責任を持たなけれ

ばならない。そして日本に帰ってもその気持ちを持ち続ける。

東江ヘッドコーチは「監督の責任だ」と言ったけど違う。だってコート内でプレーし、戦っているのは私たちだから。自立できなかった私達だってダメだし、責任はついてくる。その責任を今後どうしていくのか、個人の課題だと思う。

もし、世界選手権に行けることが決定したら、この思いを全てぶつけたい。そして、ヘッドコーチの求めたハンドボールをし、世界で勝って、日本の本当の強さを証明したい。まだ切り替えることができない自分がいる。だけど、"もっと強くなりたい、世界で勝ちたい" という思いがすごく強い。

この大会で得ることができた大切な思いだと思う。

忘れてしまいたい悔しい思いと、決して満足しないゲーム結果を忘れてはいけない。これからずっと。

《戦　評》

■予選

日　本　38（21－3，17－5）8　カタール

予選リーグ第１戦のカタールとの戦い。試合開始、八十島の速攻で３連取して試合の主導権を得る。さらに、初出場のカタールに対し、ボール中心のコンパクトな守りから、両サイド、ポストの速攻で得点を重ね前半を 21 対３で終了。後半に入っても集中力を切らすことなく、中西、沢井、石野の速攻、岡本のカットイン、樽井のディスタンスシュートで得点する。メンバーチェンジも多く行い、コートプレーヤー全員得点の結果、38 対８で圧勝する。明日からの試合につながる内容となり、今後に期待したい。

【得点】 沢井６点、塩田、八十島５点、岡本、石野、鳥飼、中西４点、樽井３点、池之端、山野、作内１点

日　本　20（11 － 15，９－ 12）27　カザフスタン

試合開始１分、八十島の速攻シュートが着地となる不可解な笛で試合が始まった。日本は６－０ディフェンスで対応していたが、７ｍでコンタクトし押し込まれるプレーが地元びいきの７ｍスローとなる。８分過ぎより増田をトップとする５－１ディフェンスに切り替え、相手のパスリズムを崩し、９ｍエリアに進入させないことに成功する。前半 14 分まで一進一退であったが、15 分 30 秒に全くコンタクトしていない作内が不可解な退場となると、ミドル、カットインで得点され日本が追う展開となり、前半を 11 対 15 の４点ビハインドで終了。後半に入ると石野のカットイン、作内のディスタンスシュートで得点するが、要所で日本の正常なコンタクトプレーを退場とされ、リズムに乗りきれない。結局、後半だけで６人の退場者を出し、20 対 27 で惜敗した。

【得点】 作内６点、石野５点、山野４点、増田２点、池之端、塩田、八十島１点

■準決勝

日　本　27（11 － 18，16 － 15）33　韓　国

決勝進出をかけての一戦。日本は立ち上がり固くなり本来の動きが出来ず０対５とリードされるが、６分 10 秒に八十島の速攻で初得点すると、漸くチームが機能するようになる。10 分過ぎから池之端の速攻などで反撃するが、オフェンスのテクニカルミスや単調なシュートを速攻で得点されると、点差が開き前半を 11 対 18 で終了。後半より増田をトップにした５－１DF にシステム変更すると、韓国のオフェンスリズムが乱れ、中西の速攻などで点差を縮める。12 分 33 秒沢井の速攻で 21 対 21 の同点とし、さらに 13 分 23 秒山野のディスタンスシュートで１点リードすると緊迫した試合となる。しかし、20 分 58 秒石野の退場をきっかけに、サイドシュート等で得点され 27 対 33 で惜敗する。

【得点】 八十島７点、樽井５点、池之端４点、作内３点、沢井、石野２点、増田、山野、岡本、中西１点

■３位決定戦

日　本　33（18 － 15，16 － 18）34　チャイニーズタイペイ

試合開始、チャイニーズタイペイの高い３－３DF をセンター石野のカットインを中心に広いスペースを有効に使い得点する。守っては４－２DF から相手ミスを誘い八十島、増田の速攻につなげ前半を 18 対 16 で終了。後半に入ると疲れからかオフェンスの足が止まり、高い３－３DF を攻めきれず７分 41 秒に 22 対 22 の同点となる。13 分 34 秒相手チームのエースが失格となり、さらにコートプレーヤーが４人になるなど、大きなチャンスを迎えるが、シュートミス等により無得点に終わる。終盤、作内のディスタンスシュートや、GK 橋本が７ｍスローを２本止めるなど頑張りを見せたが、25 分から速攻、サイドなどで４連続失点し 33 対 34 で惜敗した。後半、相手チームの６回の退場を活かしきれなかったことが残念であった。

【得点】 作内 11 点、八十島、樽井６点、石野５点、増田３点、池之端、山野１点

第12回ヒロシマ国際ハンドボール大会を終えて

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

12回目を迎えたヒロシマ国際ハンドボール大会は、1994年に広島で開催された広島アジア競技大会のメモリアル大会として毎年広島で行われてきました。今年は北京オリンピック予選の年ということもあり、日本代表女子チームの強化の一環として7月上旬に開催されました。当初はヨーロッパ型のハンドボールをするカザフスタンを意識し、また一昨年まで広島メイプルレッズにいた呉成玉（オ・ソンオク）の所属するオーストリアのクラブチーム・ヒポが来日したいという連絡が入り準備していましたが、チームの都合で来日出来ないことが5月2日に判明。日本協会強化部もベルト・バウワー監督とも相談した結果、来日希望もあって最大のライバル韓国から実業団選抜チームを呼ぶこととなりました。参加チームは日本代表、韓国実業団選抜、日本リーグ選抜、それに地元広島のメイプルレッズの4チームでした。試合結果は前号の通りでしたが各チームとも今シーズン最初の試合にもかかわらず白熱したゲームを展開してくれました。大会はけが人も出ず日本代表チームをはじめ参加チームにとってはよい体験が出来たものと思っています。日本代表チームも最終戦の韓国実業団選抜戦では前半戦入れ込みすぎたのか6点差でリードされていましたが、後半に入り得意の速い試合展開を仕掛け満員の観客も熱狂した大逆転勝利となりました。





いずれにしても日本代表チームはハンドボール関係者の悲願となっているオリンピック出場に向け邁進してほしいものです。

最後にこの大会を開催するにあたり広島県、広島市、広島県体育協会、広島市スポーツ協会や特別協賛いただいた株式会社モルテンをはじめ協賛いただいた各社、また連日熱い記事で大会を盛上げていただいた中国新聞社に対しこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

ドクター・水素水 —— 特殊セラミックTスティック

簡易型水素発生「生」水器（水素発生ミネラルスティック）

豊富な水素が 水を変える！

フレンディアはJADMA（日本通信販売協会）の正会員です。

JADMA
社団法人日本通信販売協会会員

健康は毎日の飲料水から…



※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。



500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（NPO認証 東京都）



当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／18×122mm



価格／1箱3本入り 13,440円（税込み）



水の入ったペットボトルなどの容器に
スティックを入れるだけ。
2リットルの水道水にこれ１本！
しかも**6ヶ月と長持ち**です。
１日2リットル作ったとして、
たったの24円と経済的。

株式会社フレンディア

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-7 丸栄ビル6F
TEL：03-5728-3360 FAX：03-5728-3363
フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.friendear.co.jp

報告

高松宮記念杯 第48回 全日本実業団ハンドボール選手権大会

男子優勝：湧永製薬（6年ぶり16回目）

女子優勝：オムロン（2年連続7回目）

開催地実行委員会事務局　中島 昭博

この度、日本最高峰の男12、女6、合計18チームの選手役員及び関係者およそ400人を花巻にお迎えし、平成19年7月25日（水）～7月29日（日）まで5日間にわたり大会を開催いたしました。開幕前日には、花巻温泉ホテル千秋閣において、審判会議、代表者会議、開会式前夜祭が催され、開会式では、山河和教大会会長挨拶、太田利彦岩手県協会長挨拶、高橋公男花巻市副市長挨拶、優勝杯返還、功労者表彰、オムロン坂元智子さんの選手宣誓が行われ、又、前夜祭では、特別協賛日本ペイント株式会社片岡孝夫様のご挨拶、花巻農業高生による郷土芸能「鹿踊り（シシオドリ）」披露、小友正人県協会副会長の乾杯、各チーム代表者スピーチ、特別協賛と各チームへ地元記念品授与、開催地へ大会記念マスコットボール授与、原田実業団連盟理事長挨拶がありました。中でも、初出場のFC琉球GM兼プレーヤー田場代表がチーム代表スピーチで「3年後、5年後の夢」を熱く語り、功労者表彰で5年、10年継続の錚々たるプレーヤーが勢揃いすると会は最高潮に達しました。

最後まで熱戦を繰り広げたチーム関係者の皆様には心より敬意を表します。優勝した男子湧永製薬、女子オムロンの皆様、本当におめでとうございました。他のチームもそれぞれにチームカラーが発揮されて、連日詰め掛けた観客に感動を与え続けていただきました。ありがとうございました。

平成15年に開催地立候補をしてから、歴史と伝統ある大会の開催に向けて、特に今大会では次の三点をテーマとして企画してみました。

①「人（環境）に優しい大会」を表明してハンドボールと地域社会との繋がりを深める

②日本代表チーム悲願のオリンピック出場の気運を盛り上げる

③ヤングレフェリー育成プロジェクトのドッキング

上記それぞれの具体的内容を記します。

《①について》

☆「Hand in Handball in Hanamaki～花巻で手に手をとって～」"みんなのハートが北京オリンピックの力になる"

クロアチアを中心とした欧州ハンド情報＆スポーツ全般を紹介しながら、日本代表チームと海外で活躍する日本人プレーヤーへの応援メッセージ等を綴るブログ「**Hand in Handball !**」のタイトルを大会スローガンに引用させていただきました。

☆HP、マスメディアでのブームアップ

◎県協会公認ＨＰ「岩手ハンドボール応援ページ」

http://homepage3.nifty.com/iwate-handball/index.htm

◎スポーツ少年団リトルハンドＨＰ「リトルハンド」

http://abe.ihatov.jp/handball/top.htm

大会専用ＨＰ

http://abe.ihatov.jp/handball/2007jitsugyodan/

◎テレビ岩手「５きげんてれび」～大崎電気の中川善雄選手、宮崎大輔選手が生出演

◎エフエムいわて～ソニーセミコンダクタ九州の長野かづさ選手が生出演

☆「実業団選手によるちびっこ講習会」～7/7県民体育大会時に大崎電気の岩本真典選手と東俊介選手による小学生対象講習会と大会の宣伝

【岩手朝日テレビ、テレビ岩手、花巻ケーブルテレビ、新聞２社が取材】

☆「全国のトップアスリートと遊ぼう！実業団選手とちびっことの交流会」～大会前日、日本代表８選手を含む男女32名の選手（うち県内出身者６人）とちびっこ約60人による夢のような交流会が実現。合間には、県体協主催事業スーパーキッズプロジェクトの一環で、激励に訪れたアルベールビルオリンピック複合スキー金メダリストのスポーツ特別指導員三ヶ田礼一さんが持参した金メダルをこども達に触らせてくれるサプライズもありました。【ＮＨＫ、岩手朝日テレビ、テレビ岩手、花巻ケーブルテレビ、新聞３社が取材】

☆ユネスコ活動パネル展示＆募金、中越沖地震被災地救援募金コーナーの設置

ユネスコ花巻支部事務局照井悠公様（花巻中、花巻北高校ハンドボール部出身）のご協力により、ユネスコ募金コーナーと隣接して中越沖地震被災地救援募金コーナーを開設し、それぞれの募金者にユネスコオリジナル内輪が進呈されました。中越沖地震被災地救援募金にはソニーセミコンダクタ九州チームから５万円のご協力を頂いた他、多数の方々から寄せられた義援金は、確かにユネスコ本部並び

に中越沖地震被災地に送金させていただきました。
☆今秋初Ｆリーグに北海道東北ブロックから唯一参入するステラミーゴいわての紹介





《②について》
☆くじ付き入場チケット～男子最終試合ハーフタイムに中川善雄日本代表キャプテンにより、特賞：北京オリンピック豊田アジア予選会への旅行券付きペアチケット１組ほか、チャンピオンブルー日本代表公認応援Ｔシャツ（HANDBALL Fan）、各チームオリジナルグッズの抽選。
☆日本代表応援横断幕「Go to 北京」、「環境ポスター」の掲示と会場内特設大スクリーンへの「神戸アジア予選の日本vs韓国戦、日本vs中国戦」映写
☆「日の丸」（男女一枚ずつ）への応援メッセージ書き込み、日本代表チーム＆選手、並びに、実業団大会各チーム＆選手あて応援メッセージカード書き込みコーナー設置～全試合直後にマッチバイザー席をお立ち台として、各チームの指名選手にインタビュー、関連の応援メッセージカードをピックアップして場内放送で読まれた応募者にもれなく各チーム提供のオリジナルグッズをプレゼント。応援メッセージの書き込みで埋め尽くされた「日の丸」は、寄せられた全応援メッセージカードと共に、地元花巻クラブジュニア男女小学生からそれぞれ中川善雄、佐久川ひとみ両日本代表キャプテンに手渡されました。

《③について》
☆ヤングレフェリー育成プロジェクト（以下、ＹＲ、ＹＲＰと表記）
- 始球式～北松園中３年の佐々木太一くんと花巻中３年の中島航くんの最年少ＹＲから山河大会会長と及川花巻市教育長へ試合球が手渡され始球式が行われた後、第１試合担当審判の安田・永春ペア、中館・多田ペアのリードのもとＹＲ２人によるコイントスとスローオフで第１試合が開始。
- 女子５位決定戦をＹＲＰ受講者（中学生４名）が、柏舘、西郷育成担当の指導のもとレフェリー観察。吉田大会審判長からも御指導をいただきました。
- 昨年度受講してグリーンワッペンを、さらに今年度はＤ級を取得し県内大会で吹笛している岩手ＹＲ４名が大会審判員と交流し、連日観戦して研鑽しました。

以上、大会運営と各種企画は、偏に実業団連盟関係各位の御指導のもと県協会並びに市協会のバックアップがあればこそ滞りなく成し遂げることができました。

また、宇野和男アナウンサーとお弟子さん方、エレクトーン奏者宇夫方景子さんと効果音ＢＧＭ操作の三田地優さんはじめ、裏方で支えていただいた役員・補助員すべての方々に言い尽くせないほどのお世話をいただきました。衷心よりお礼申し上げます。

今回、ＦＣ琉球に帯同収録した琉球放送、大崎電気宮崎大輔選手の取材に訪れたＴＢＳ放送、地元花巻の子ども達への普及を取り上げてくれたＮＨＫ盛岡放送局と花巻ケーブルテレビ等、マスメディアが取り上げてくれるだけの価値がハンドボールにはあると再確認できました。今後も各方面から価値を高め続けていきたいものです。

結びに、参加選手のハイレベルでひたむきなプレー、それを支えるチーム関係者、審判団の真摯な姿が連日詰めかけた観客と運営スタッフにかけがえのない感動と勇気を与えてくれたことに心から感謝いたしますとともに、関係の皆様の御健勝とハンドボール界と地域社会の活性化を祈念しつつ、大会報告とさせていただきます。

※大会結果は、「スコアールーム」（p.25）に掲載しています。

男子：ＨＣ奈良 女子：徳山クラブ が共に初優勝を飾る

■大会を振り返って

島根県ハンドボール協会理事長　森江和吉

第27回全国クラブハンドボール選手権大会（西地区大会）を、今回初めて国際文化観光都市、島根県松江市でまた、日本体育協会設立に尽力された、岸清一先生、生誕の地・松江市、松江市総合体育館を会場に開催することになりました。

今回、開催時期に参議院議員通常選挙の日程と重なり、会場確保に苦心致しました。日程が決まってからも、各ブロック予選に開きがあり、ぎりぎりプログラムが間に合ったような次第でした。そして、大会を間近にし、7月としては大型の台風4号が西日本に接近し、大会開催が危ぶまれましたが、幸にも、1チーム欠けただけで大会を開催する運びとなりました。特に、台風の直撃を受けた沖縄のレキオクラブに参加していただいた事は、大会関係者に熱いものが込み上げてくる思いでした。

開会式では、（財）日本ハンドボール協会の伊藤宏幸常務理事に挨拶をいただき、試合に入ると、さすがに各ブロックを勝ち抜いたチームだけあり、見ごたえのある試合が続き、好ゲームが展開されました。また、試合をスムーズに展開するため、冷房を入れたところ、沖縄のチームから、寒すぎると申し出があり、西日本も広いことを感じさせられました。そして、若い審判員も試合を盛り立ててくれました。特に、女子の準決勝、大阪教員とレキオクラブは第一延長、男子の決勝では、宮崎フェニックスとHC奈良が第二延長まで進み、熱戦が繰広げられ、男子はHC奈良が、女子は、徳山クラブが共に初優勝を成し遂げ、大変盛り上がった大会となり、選手・審判員の皆様に感謝致しております。今後は、東西のチャンピオンが対戦できる機会を作っていただければ、もっと盛り上がる大会となる事と思います。

最後に、この大会の為にご尽力いただきました、日本ハンドボール協会、島根県体育協会、松江市教育委員会及び地元の高校生、大学生、スタッフに対し感謝申し上げますとともに、この大会が益々発展致しますようご祈念申し上げ大会の報告とさせていただきます。

■戦　評

▼男子準決勝

宮崎フェニックス 21（12 − 7、9 − 12）19　PF 須磨東クラブ

立ち上がり宮崎はサイドシュートで加点しリードしたが、須磨もセットから加点し追い上げた。前半宮崎の5点リードで終了した。後半、須磨も速攻等で同点に追いついたが、最後は、試合巧者の宮崎が2点差で逃げ切った。

ＨＣ奈良 16（7 − 8、9 − 4）12　MHC

互いに堅いディフェンスで前半はMHCが1点リードして終わった。後半も、終了間際まで1点差の好ゲームもMHCに退場者が出て勝負が決まった。

▼男子決勝

HC 奈良　29（9 − 10、11 − 10）25　宮崎フェニックス
（2 − 2、1 − 1、4 − 0、2 − 2）

立ち上がり、両チームとも固さが見られたが、ゲームは2分過ぎ宮崎の先制点で動き始めた、15分までは一進一退の状態が続いたが、その後、宮崎は速攻で加点、奈良も速攻で対抗し前半を10対9で終了。後半も前半同様なゲーム展開となった、4分過ぎから奈良が3連続得点し、逆転に成功する。その後、互いに加点し23分に宮崎が20対20の同点に追いつき、延長戦に突入する。第一延長も3対3と互いに譲らず、第二延長にはいる。前半奈良は4連続得点し主導権を握り、結局29対25で奈良が粘り勝ち、初優勝を飾った。

▼女子準決勝

大阪教員　24（11 − 7、8 − 12）21　レキオクラブ
（1 − 1、4 − 1）

両チームとも堅い守りで、10分4対4から大阪教員がペースを上げ、リードを広げ、前半を11対7で終了。後半に入り、レキオが追い上げ15分には、1点差とし残り16秒から速攻で同点に追い付き、延長となる。驚異的な粘りを見せたレキオであったが、延長後半力尽き、3点差で大阪教員が逃げ切った。

徳山クラブ　17（8 − 9、9 − 6）15　風見鶏クラブ

ポストプレー、ミドルシュートの応酬で、後半残り10分までは、1点を争う好ゲームとなった、残り10分を切ってから、地力に勝る徳山が2点差で競り勝った。

▼女子決勝

徳山クラブ　23（13 − 11、10 − 10）21　大阪教員

立ち上がり、大阪教員の2点連取から始まったが、徳山のディフェンスが良くなり、追い上げる。徳山に退場者が出たにもかかわらず、徳山が連取し2点リードで前半終了。後半も一進一退の攻防となったが、徳山11番の活躍で逃げ切り、初優勝を飾った。





男子・蓮田クラブ（9年ぶり2回目）女子・青森クラブ Pink（初優勝）に栄冠

■大会を振り返って

福島県ハンドボール協会 大会事務局

福島県本宮市（これまで本宮町でしたが、今年 1 月 1 日に白沢村との合併により市になりました）は広大な県のほぼ中央に位置し、西に安達太良山、東に阿武隈川を望む最高の地形です。古くは奥州街道の宿場町として繁栄、南東北の交通の要衝として役割を果たしています。東北自動車道本宮 IC をはじめ多くの IC と隣接し、福島空港へは 40 ㎞の距離にあるなど利便性は申し分のない本宮市で全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会が開催されて、はや 12 年目となりました。今年も各ブロック予選を勝ち抜いた強豪チーム（男子 16 チーム、女子 8 チーム）が互いの力と技を競い合い、記憶に残るたくさんのゲームが繰りひろげられました。また、会場には全国レベルのプレーを観戦しようと多くのハンドボール愛好者が駆けつけ、大会を盛り上げていただきましたことに協会一同、衷心より御礼申し上げます。

なお、前年度同様に全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会は日本ハンドボール協会公認審判員 A 級の審査会舞台となりました。合格目指して全国各地から来た受験者の真剣な表情、そして厳しい視線の奥に温かく見守る表情を覗かせていた日本ハンドボール協会審判部審査指導委員の皆さま、本当にお疲れさまでした。

最後に日本ハンドボール協会が主管する『2008 北京オリンピック男子アジア予選愛知・豊田大会』が盛大に開催され、日本がアジア代表権を獲得することを協会一同、願っております。

■戦　評

▼男子決勝

蓮田クラブ　17（9 − 11、8 − 5）16　不来方クラブ

蓮田クラブは 2 回戦・長野クラブ（長野）との延長戦の死闘を制し、不来方クラブは準決勝で関東予選を 1 位で通過した甲府クラブ（山梨）を撃破してともに決勝進出。両チームとも 1・2 点差の接戦を勝利しての決勝進出ということもあり、チームの仕上り・雰囲気は上々といった状態でゲームがスタート。

前半 10 分までは両チームが点を取りあい、5 − 5 の静かなゲーム展開が続いたが、10 分過ぎから蓮田クラブ 15 番山口を中心に 4 連続得点を含める猛攻を仕掛け、前半 20 分の時点で 9 − 6 と蓮田クラブが 3 点リードする。ところが、前半 20 分過ぎに蓮田クラブ・2 番辻野の退場からゲームが急展開。不来方クラブは一人少ない相手チームのディフェンスを見極め、7 番森の 3 連続得点を含む 5 点を連取し、11 − 9 の不来方クラブ 2 点リードで前半終了。

後半早々に蓮田クラブ 15 番山口の 2 連続得点で 5 分には 11 − 11 の同点に追いつくものの、両チームとも決定的な点差を広げることができず、互いに得点を重ねて終盤に。延長戦が予想された後半終了 2 秒前、不来方クラブのファールで蓮田クラブのフリースロー。スロー実施前に後半終了のブザーが鳴り、ワンスローが与えられる。投げるのはチームの得点王で実業団・本田技研でも活躍した蓮田クラブ 14 番広政宜孝。それに対し、守る不来方クラブ GK は現在、富士大学男子監督を務める樋下孔士。会場の全観客が見つめる中、広政の放った力強いシュートは相手ディフェンスに当たり、ボールはコースを変えてゴール方向へ。不意をつかれた不来方クラブ GK 樋下も反応できず、無情にもボールがゴールに吸い込まれ、蓮田クラブの 9 年ぶり 2 回目の優勝が決まった。

▼女子決勝

青森クラブ Pink　16（8 − 8、8 − 6）14　SAKURA クラブ

関東ブロック予選を 1 位通過そして前年度覇者でもある SAKURA クラブと東北ブロック予選 1 位の青森クラブ Pink が決勝で対戦。

前半は SAKURA クラブ 2 番宮本、3 番伊藤、7 番松井らが華麗なシュートを決めれば、負けじと青森クラブ Pink は 3 番秋村（知）、4 番秋村（朋）のコンビがミドルシュートで応戦し、両チームとも 8 − 8 の同点で前半を折り返す。ここで特筆すべき点は青森クラブ Pink の前半得点のうち、4 番秋村（朋）が 5 点をたたき出したこと。SAKURA クラブ（執印監督）としては後半、彼女をどれくらい封じこめることができるかが勝敗の分岐点であったと思う。

後半、幸先よく 1 点を先制した SAKURA クラブであったが、連続 2 失点で 1 点ビハインドとなり、5 分過ぎにはチームの得点源でもある 2 番宮本が退場に。正念場の 2 分間は豊富な練習量と経験を持つ SAKURA クラブが何とか凌ぎ、そのうえ 10 番山川のシュートが決まりだして 11 − 11 の同点とする。しかし、11 分過ぎにまたも 2 番宮本が 2 回目の退場となり、ここからリズムを崩した SAKURA クラブは青森クラブ Pink に 3 連続得点などを許し、結局 16 − 14 で青森クラブ Pink が逃げ切り、初優勝を遂げた。

なお、青森クラブ Pink4 番秋村（朋）の勢い止まらず、後半も 4 得点前後半合わせて計 8 得点というチーム得点の半分をたたき出す大活躍が光った試合であっと思う。





～10万人会って、なに…～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

日本協会が99年に立ち上げた「がんばれハンドボール10万人会」が06年末で10万人を超えたという。目標に到達したことは、ともかく喜ばしいことではある。

目的として「財政支援し、ハンドボールの普及発展を支援する」とうたっているが、私は恥ずかしながら誤解していたようだ。と言うのは、OB、OG、愛好者らによる「後援会組織」と最近まで思っていた。しかし、それは間違いだった。小学生まで含めた選手をはじめ指導者、審判員、チームスタッフらすべての登録者を含めての“会員数”だった。

「10万人達成」と聞いて、心底「早いな。すごいな」が実感だっただけに、言い方は悪いが何か肩透かしを食った気がしてしまった。すべてをひっくるめた数字なら「がんばれ…」の名称に違和感を覚えるからだ。「がんばれ」はファン、あるいはサポーターサイドから見たあと押し、励ましを意味するものではないかと思うからである。

実際のところ、会員と数える100,555人（5月末現在）のうち、いわゆるサポート会員はわずかに5,374人にすぎない。一時は700人弱に落ち込んだことがあるだけに、その会員の増大数は大したものである。とくに05年度以降の増加ぶりは驚くべき急カーブを描いている。

これは関係者の熱意と努力のたまものである。試合会場での「10万人会エリア」の確保などのサービスが実を結んだものであることは間違いないところである。

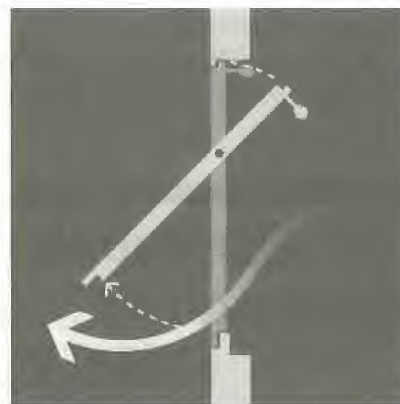
今後も、こうしたファンサービスは継続することが大切なのは言うまでもないが、さらにファンを惹きつけるアイデア、意見をどしどし出し合っていくことが重要だろう。

会場が熱いファンの熱気で包まれる - こうした光景を想像しただけで、ゾクゾク、ワクワクする。確かにハンドボールを観戦したことのない人が結構多いのも事実である。彼らにどうすれば会場に足を運ばせることが出来るか。難しい課題ではあるが、やりぬかない限りメジャーにはならないし、メディアも振り向いてはくれない。あっさり「日本ハンドボール後援会」などの名称で、ファンクラブ的な組織に衣替えしてもいいのではないかと思う。そして競技者登録数を15万人、20万人と高い目標を掲げた方がいい気もするのだが…。

呼吸する建築



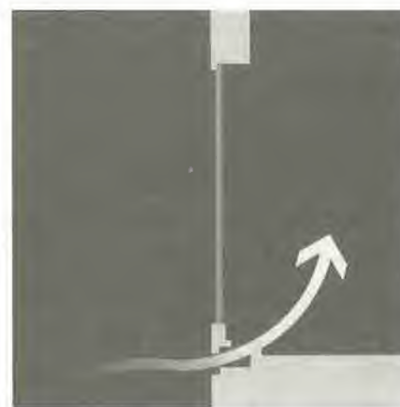




Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



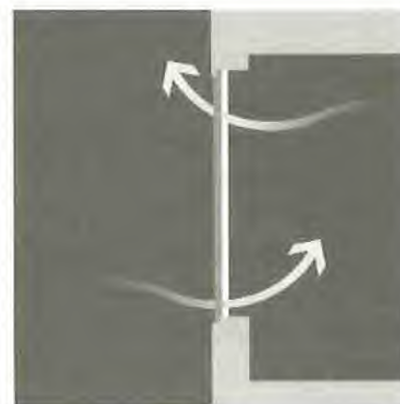




Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

平成19年3月17日・18日の両日、駒澤大学において、第5回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。研究会の発表について、本誌で連載報告する運びとなりました。
今月は清水宣雄先生（国際武道大学）の発表内容「IHF Handbook For Basic And Advanced Training Understanding, Interpreting And Apply The Rulesの翻訳による解釈の可能性について」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で順次報告いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

「IHF Handbook For Basic And Advanced Training Understanding, Interpreting And Apply The Rules」の翻訳による解釈の可能性について

清水宣雄（国際武道大学）

キーワード：ルール解釈、ボールの扱い、パッシブプレイ

1．はじめに

我が国におけるスポーツは、ハンドボールを初めとして大部分が外国から伝えられたものであり、ルール等を学ぶために、外国語を翻訳しなければならなかった。この際、微妙な外国語のニュアンスを完璧に翻訳することは困難であり、誤訳から、本来のルールとは異なる解釈がなされる事態も発生した。

例えば、かつて、野球においては、「膝の上」の解釈の、間違いが判明し、ストライクゾーンを下方へ拡大する修正がなされたことがある。また、ハンドボールにおいても、本来許される筈の「～ to play the ball away form ～」が、「ボールを叩き落す」と訳され、その様にプレイした日本人選手の動作が、全て反則に判定されるという事態が発生したことがある。

ハンドボールはヨーロッパを中心的に発展し、現在もIHFの中心は欧州連盟である。ネイティブプレイヤーとも言える、欧州人にとって、当たり前の常識であっても、ノンネイティブプレイヤーである我々が、ルールに明文化されていない事柄を理解することは困難である。

IHFもその事にようやく気付き、4年に一度のルール改正の度に、条文の明確化に取り組み、以前に比べ遥かに理解しやすい、ルールとなった。更に、写真・図・表を多用した、ルール解説書を作成し、各国に配布することで、ルール解釈・運用の、国際的統一を図っているものと考えられる。

今回の研究では、この解説書を翻訳する過程において明らかとなった、我が国における従来の解釈の限界、新たに判明した解釈の可能性、この解説書を以ってしても、判断できない解釈を考察し、我が国におけるルールの統一、国際化に寄与しようとするものである。

なお、この研究は、翻訳担当部分についてのみ、考察したものであり、ルール全体について検討したものではない。また、(財) 日本ハンドボール協会審判委員会の公式見解となるものではない。

2．翻訳担当部分

「IHF Handbook For Basic And Advanced Training Understanding, Interpreting And Apply The Rules」 の p.1 ～ p.31を担当。

Chapter1: The basic

1.4 Playing The Ballを翻訳した。

p.1 ～ p.18ではボールの扱い方、p.19 ～ p.31ではパッシブプレイについての記載があった。

3．翻訳・解釈上の問題点

この解説書を翻訳する過程において明らかとなった、翻訳・解釈上の問題点は、主に以下の4点である。

・採用する訳語の問題点
・用語の定義の問題点
・従来と異なる解釈の問題点
・解釈を定められない問題点

（1）It is not permitted to ～

この解説書では、「ルール7は2つの部分に分けられる。7：1－7：6では、個々のプレイヤーが許される、ボールの扱い方（ボールテクニック）が記述され、7：7－7：10では、許されない方法が記述されている。」とある。

「～することは許されない」と訳した場合、7：9の「レフェリーにボールが触れた場合、プレイは続行される。」が否定されることになる。

明らかに、解説書の過ちではないかと考えられる。

（2）ボールの取得・保持について

下記のように様々な表現がなされている。

～ catching the ball	～ receiving the ball
～ picking up the ball	～ hold the ball
～ bring the ball under control	～ with the ball
～ handle the ball	～ bouncing the ball
～ dribbling the ball	～ possession of the ball

これらの関係について考察したものを図1に示す。

ボールを取ること（catch）には、receiveとpick upがある。pick upは自分からのボール、即ち、bounceやdribble後のボールを取ることを意味し、receiveは他からのボールを取ることを意味する。

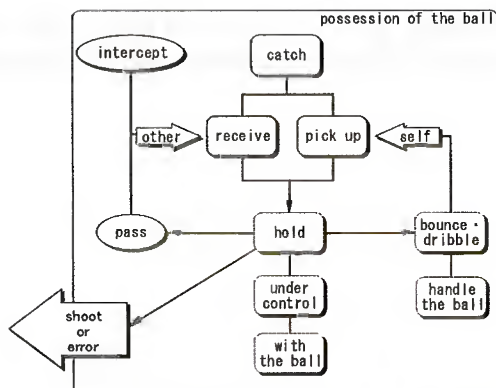


図１　ボール保持の構造

ボールを取った後に、hold することでボールをコントロール（under control）し、この状態は with the ball と表現されることもある。

ボールを床に１度弾ませることが bounce であり、連続で弾ませると dribble となる。これらを合わせて handle the ball と表現されることがある。

ボールを catch してから、shoot や error で手放すまでの状態が、個人の possession of the ball であり、個人のこの状態が連続する間は、チームで possession of the ball の状態が続くことになる。

（3）～ direct the ball towards the floor

ドリブルの開始が「ボールを床に方向付けたとき」と定義され、意図的な動作が判定の基準であることが判明した。

その結果、身体に触れたボールが床に落ちれば、ドリブルを開始したと見なす、従来の解釈とは異なり、receive 時の落球はドリブルとは見なされず、その後 catch（この場合は receive）した後にドリブルをしても、反則とはならないことが判明した。しかし、pick up 時の落球後のボール接触は反則である。

ただし、「床方向への方向付け」が必ずしも、上方から下方への方向付けに限定されるものではないと考えられる。

（4）receive 後と pick up 後のステップ

近年、我が国において、ドリブル後のステップは、必ず「第１歩」からスタートするとの解釈が流され、混乱を招いた。

しかし、この解説書では、receive 後と pick up 後で、許されるプレイに、ルール上の区別はない、と明確に記載されている。

写真を用いた説明でも、「基準足（０歩）」と「第１歩」を見



極めることの重要性が強調されているだけで、混乱を招いた解釈の裏付けとなる解説は見られなかった。

（5）コート外でのドリブル

サイドラインを踏んでのドリブルは許されるが、片足でもコート外に出てのドリブルは許されない。従来の我が国の解釈より厳しい基準が示されている。

（6）プレイの局面（Phases of play）

従来の判断基準と大きく異なるものではないが、攻撃が４つの局面によって構成されることが説明され、それぞれの局面において、パッシブプレイと判断されるべき基準が明確に示された。

ボール運び局面（Moving down the court）
組み立て局面（Build-up phase）
仕上げ局面（Finishing phase）
新たな組み立て局面（Renewed build-up phase）

（7）パッシブプレイに対する対応

予告合図なしで即判定すべきもの
予告合図を出すべきもの
予告合図の解除
予告合図からの判定

従来の判断基準と大きく異なるものではないが、具体的な判定基準が明確に示された。

4. まとめ

IHF から発行された解説書の、ボールの扱いとパッシブプレイに関する部分を翻訳した。その結果、従来の解釈と異なる解釈が明らかとなり、曖昧であった判定基準が、具体的に解説された。我が国における判定基準の統一に寄与できるものであると考える。

5. 謝辞

この様な翻訳・発表の機会が与えられたことに関して、日本協会並びに関係者各位に対し、感謝の意を表したいと考える。

ナショナルチーム等ドクター・トレーナー帯同報告：メディカルレポート

1．U-18女子；ユースアジア選手権報告

事前合宿；① H19.6.22 ～ 6.25 於武庫川女子大学（木村淳一 Tr・熊本自衛隊病院）
② H19.7.21 ～ 7.22 於武庫川女子大学（大里佳之 Dr・パンジョスポーツクリニック）
大会参加；③ H19.7.23 ～ 7.29 於台湾、板橋市（木村淳一 Tr）

今回 H19.7.23 ～ 7.29 間、台湾の板橋市で行われた、第2回 U-18 女子ユースアジア選手権に帯同した報告を致します。

遠征前の H19.6.22 ～ 6.25・7.21 ～ 7.22 の間、兵庫県の武庫川女子大学ハンドボール体育館にて行われた合同合宿から帯同し、アジア選手権優勝を目標に DF/OF ともにシュミレーションなどの連携・フォーメーションを中心に練習を重ね、選手権に臨みました。

合宿前より傷害を持っている選手が2名おり、別メニューを実施。1名は5月に膝関節鏡視下手術において棚切除術と膝蓋骨疲労骨折を合併し、もう1名は右肘関節内側上顆と手根屈筋部の疼痛がインターハイ予選より持続し、合宿後に地元医療機関を受診しております。全体的にハンドボールに特徴的な足関節外傷の既往が多く背屈制限が存在し Knee-in Toe-out 傾向に加え、慣れていない体育館の床表面（サーフェス）の問題も重なり下腿内側（後脛骨筋）部痛の訴えが多い印象を受けました。かかわった選手には、アジア選手権までの1ヶ月間、ストレッチング・トレーニングの実施を指導しました。

今回の選手権はドクター不在の帯同となり、外傷発生時の対応、投薬の問題は出国前より不安材料となっていましたが、21日にパンジョンスポーツクリニックの大里先生が来られ、診察の必要な選手5名の診察を行っていただきました。特に競技中止となる選手はいませんでしたが、手関節の精査必要な選手が1名いました。帰国後、本人には医療機関の受診を勧めています。

海外が初めての選手がほとんどで、台湾の気候は高温多湿でしたが、移動はバスが手配され、試合会場も、もの凄いスコールの際に雨漏りというハプニングがありましたが、空調設備が整った環境で行えました。食事はバイキング形式と中華料理の円卓形式での2通りでしたが、日本人好みの料理で、選手・スタッフには好評であり、内科的症状を訴えた選手はいませんでした。また、全日程を通して通訳の方の迅速な対応は非常に良かったと思います。

外傷に関してですが、21日の合宿時、ポストの選手が汗ですべり左足関節内反捻挫受傷し、前距腓・前脛腓靭帯ともに腫脹・熱感・疼痛があり、MCR（微弱電流）とアイシング・テーピングにて対応しました。4名の選手に出血がありましたが、アイシング・ワセリン塗布等の処置を行っております。（全員軽度の出血でした）

23日の韓国戦において、サイドの選手が左側へカッティングする際、相手に足を固定され Knee-out Toe-in にて左膝関節捻転し受傷しております。受傷直後は筋出力が悪く膝蓋骨跳動もあり、応急処置と固定をし経過観察で様子をみました。後日、疼痛軽減し、水腫 or 血腫軽減してジョグやステップ動作遂行は可能でしたが、前方引き出しテスト・ラックマンテストにおいて左右差が生じていました。エンドポイントは軽度存在しているように思えましたが、しかし、ジャンプ着地の際、Giving way（膝折れ）が出現し、練習・試合ともに不参加となりました。もともと既往にて膝関節捻挫があり、帰国後、医療機関を受診しています。その他、打撲による筋挫傷が3例ほどありましたが、アイシング・圧迫・微弱電流等の処置をし、問題なく試合に出場しました。

今回の合宿・遠征を通して、全体的に足関節捻挫の既往が多く、不安定性を残したまま、競技復帰し、他の部位（シンスプリント・鵞足炎・腰痛等）への傷害の引き金となっているのではないかと思いました。今後の課題としては、合宿の際に選手をチェックし、身体状況を十分把握した上での対応が求められるのではないかと痛感しています。またこの大会において、ドーピング検査はありませんでした。国際大会においては必ず実施されるという認識の下、事前に問診で確認をしましたが、選手各人18歳以下ということもあり認識度は低い印象を受けました。可能であれば、出国前にドーピング知識向上講義があれば、選手・スタッフを含め認識度は向上するのではと感じました。帯同時における、唯一の問題は私自身が扁桃腺を腫らして熱発し、ご心配・ご迷惑をおかけしたことです。この場を借りて、選手・スタッフの皆様に心から深謝いたします。

全日程をあわせると2週間程、チームにかかわれたことは貴重な経験となりました。来年の世界選手権での活躍を期待し、報告を終わります。

木村淳一（自衛隊熊本病院理学療法班）

2．U-20 女子；第９回女子 Jr アジア選手権大会直前合宿 (H19. 6. 27 於大崎電気合宿所)

大会出発前日の間断時（夜間～深夜）、予め予診票（注 1）の記入により 10 名の選手を対象にメディカルチェックに準じて診察しました。結果は、10 名の選手に B-1（６名)、B-2（４名)、C-1（２名）の疾患（注２）が認められました。

注１；予診票項目…所属、氏名・年齢・性、住所、電話、受診目的（応急処置・スポーツ医事相談・他)、症状部位、現在の症状・発症年月日時、既往歴、薬・注射による異常反応・アレルギー等。

注２；医学的評価

分類	管理・スポーツ
A（正常）	全く問題なし。
B-1（観察）	自己管理しながらスポーツを続けて良い。
B-2（注意）	指導者の管理下で注意しながらスポーツを続けて良い。
C-1（精査）	医師による精密検査が必要であり、スポーツは続けて良いが練習量・方法に制限が必要なこともある。
C-2（治療）	医師による治療が必要であり、スポーツは一時中止する。

河野卓也（Dr・こうの整形外科クリニック）

3．U-20 女子；第９回女子 Jr アジア選手権大会報告 (H19. 6. 26 ～ 7. 10 於カザフスタン)

活動内容としては、以下のメディカルサポートに終始しました。

①試合前テーピング（大会期間中：連日５～８選手）

②練習・試合前後のリコンディショニング；目標とする筋肉を狙ったストレッチング

③練習・試合後のメディカルケアー（大崎電気での合宿中はリハビリ指導）

④慢性外傷（慢性で放置している痛み）に対するリハビリテーション；今後のトレーニング方法やテーピングなどの指導

⑤合宿・大会期間中の外傷者とその経過・処置など

今大会を終え、大きな問題としてコンディショニングの維持でした。外傷は少なく、問題にいたるものは殆どありませんでしたが、女性特有の疾患等を始め、食中毒に似たような症状が多くあり、プレーに集中できない選手が数人いたように感じました。

食事等も最善の注意を払いつつもこのような事態になった要因として、生活環境の変化・集団活動でのストレス等が考えられます。このような問題を解決する重要性が感じられた大会でした。

大城一樹（Tr・びわじま整形外科リハビリテーション科）

4．NA 女子；第 12 回ヒロシマ国際大会報告 (H19. 7. 5 ～ 7. 6 於ヒロシマ東体育館)

NA 女子チームのメディカルサポートは、倉田トレーナーが通年、帯同・コンディショニングの管理を担当されているので、私は Dr として彼からの情報を元に、大会中でもありましたので時間制約をせずに可能な限りの情報収集を行いました。

試合結果は、S 選手が試合中に反復性に左肩脱臼が生じたため「C-2（治療･医師の管理･スポーツ中止)」として試合終了後「精査」としました。その他の選手は「A（正常－現状継続)」または「B-1（観察－自己管理、現状継続)」という内訳でした。

コンディショニング面では、倉田トレーナーの部屋には、JHA スポンサーの１社（伊藤超音波）の器械が２台あり、また針治療が可能であり、まるで鍼灸院での十分なケアーが行われていました。また選手の一人は、これまた JHA の正式スポンサーである「ドクター水素水」を飲んで体調管理を行っていました。NA 女子チームは、この数年の継続した倉田トレーナーの活動で、男子チーム同様に障害が最小限に抑えられておりました。その面も含めてチームの雰囲気はベルト・バウワー監督の下、オリンピックに向けて大変良好な状態でありました。

佐久間克彦（Dr・熊本赤十字病院整形外科）

5．NA 男子；豊田カップ大会報告 (H19. 7. 6 ～ 7. 8 於トヨタスカイホール)

試合中での外傷では、N 選手が非利き手の左第 4 中手骨斜骨折受傷。帰郷後、保存加療となったようです。また、T 選手が左利き手の右小指 PIP 関節背側脱臼にて整復後、試合続行しましたが、中節骨掌側 VolarPlate 剥離小骨片を認めました。固定にて治療予定です。シンスプリントが数名にみられました。９月からの本戦に向けて、バックアップしてもらえる病院（出来るだけ、待ち時間を少なく、なおかつ画像検査が迅速に行えるところ）を用意しておく必要があると感じました。

今回の NA 男子のメディカルサポートは、NA 女子同様に、赤尾トレーナーの存在によって、障害が最低限に止められておりました。是非、北京の切符を掴みたいものです。

沖本信和（Dr・浜脇整形外科病院）

スコアールーム①　第27回全国クラブ選手権大会・西地区大会

開催期日：2007年7月13日（金）～7月15日（日）
会　場：島根県・松江市総合体育館

【男　子】

▼予選リーグAブロック
宮崎フェニックス　30（17－12、13－9）21　東海学連クラブ
宮崎フェニックス　30（18－8、12－8）16　松工クラブ
東海学連クラブ　35（19－10、16－9）19　松工クラブ

▼予選リーグBブロック
PF須磨東クラブ　30（12－12、18－11）23　アローズ高知
PF須磨東クラブ　24（11－7、13－8）15　セキュリティ
アローズ高知　24（11－5、13－11）16　セキュリティ

▼予選リーグCブロック
MHC　21（14－7、7－9）16　江津クラブ
MHC　12（不戦勝）0　那覇西クラブ
江津クラブ　12（不戦勝）0　那覇西クラブ

▼予選リーグDブロック
HC奈良　20（8－9、12－8）17　今治ハンドボールクラブ
HC奈良　21（不明）18　下松クラブ
今治ハンドボールクラブ　23（不明）16　下松クラブ

▼決勝トーナメント1回戦
宮崎フェニックス　21（12－7、9－12）19　PF須磨東クラブ
HC奈良　16（7－8、9－4）12　MHC

▼9－11位決定戦（※勝者が9位、敗者が11位）
セキュリティ　20（11－9、9－7）16　松工クラブ
下松クラブ　12（不戦勝）0　那覇西クラブ

▼5－7位決定戦（※勝者が5位、敗者が7位）
東海学連クラブ　24（10－8、14－13）19　アローズ高知
今治ハンドボールクラブ　19（11－4、8－6）10　江津クラブ

▼3位決定戦
MHC　24（12－11、12－11）23　PF須磨東クラブ

▼決　勝
HC奈良　29（9－10、11－10）25　宮崎フェニックス
（2－2　延一　1－1）
（4－0　延二　2－2）

【女　子】

▼1回戦
レキオクラブ　24（11－3、13－9）12　ORANGEBIRD
大阪教員　36（17－7、19－9）16　徳島クラブ
徳山クラブ　26（15－6、11－6）12　BRHC
風見鶏クラブ　17（7－3、10－5）8　F・C・C

▼準決勝
大阪教員　24（11－7、8－12）21　レキオクラブ
（5　延長　2）
徳山クラブ　17（8－9、9－6）15　風見鶏クラブ

▼7－8位決定戦
BRHC　15（9－5、6－7）12　徳島クラブ

▼5－6位決定戦1回戦
ORANGEBIRD　26（15－10、11－10）20　徳島クラブ
F・C・C　15（4－4、11－6）10　BRHC

▼5－6位決定戦
ORANGEBIRD　16（8－7、8－8）15　F・C・C

▼3位決定戦
風見鶏クラブ　22（10－10、12－9）19　レキオクラブ

▼決勝
徳山クラブ　23（13－11、10－10）21　大阪教員

スコアールーム②　第27回全国クラブ選手権大会・東地区大会

開催期日：2007年7月27日（金）～7月29日（日）
会　場：福島県・本宮市総合体育館ほか

【男　子】

▼1回戦
甲府クラブ　39（19－10、20－13）23　OJC
FOG　39（18－7、21－11）18　岩手教員ハンドボールクラブ
不来方クラブ　26（12－11、14－9）20　小金クラブ
学石クラブ　27（13－16、14－10）26　函工クラブ
水海道鬼怒清流クラブJr　31（17－6、14－7）13　金津クラブ
麻生フェニックス　34（18－11、16－10）21　紫嵐会
蓮田クラブ　27（10－10、17－11）21　湖陵クラブ
長野クラブ　22（13－9、9－12）21　BG21

▼2回戦
甲府クラブ　35（14－14、21－13）27　FOG
不来方クラブ　25（8－13、17－10）23　学石クラブ
水海道鬼怒清流クラブJr　36（17－14、19－9）23　麻生フェニックス
蓮田クラブ　23（10－9、8－9）20　長野クラブ
（5　延長　2）

▼準決勝
不来方クラブ　21（11－9、10－11）20　甲府クラブ
蓮田クラブ　29（10－12、19－11）23　水海道鬼怒清流クラブJr

▼決勝
蓮田クラブ　17（9－11、8－5）16　不来方クラブ

【最終順位】
優　勝　蓮田クラブ
2　位　不来方クラブ
3　位　甲府クラブ、水海道鬼怒清流クラブJr

▼本宮市長杯（1回戦敗者戦）
OJC　30（17－10、13－14）24　岩手教員ハンドボールクラブ
小金クラブ　38（20－15、18－16）31　函工クラブ
金津クラブ　29（14－14、15－11）25　紫嵐会
BG21　28（13－15、15－12）27　湖陵クラブ

▼準決勝
小金クラブ　23（11－7、12－7）14　OJC
BG21　30（14－3、16－6）9　金津クラブ

▼決勝
BG21　23（10－10、13－8）18　小金クラブ

【女　子】

▼1回戦
SAKURAクラブ　22（13－5、9－3）8　萩江クラブ
福島クラブ　27（13－7、14－8）15　屋代クラブ
青森クラブPink　20（9－6、11－11）17　かぶら女子ハンドボールクラブ
REDS　15（9－6、6－7）13　北海道SEVEN

▼準決勝

SAKURAクラブ 16（8－6、8－5）11 福島クラブ
青森クラブPink 23（8－8、8－8）22 REDS
（5 延長 5）
（2 7Mtc 1）

▼決勝

青森クラブPink 16（8－8、8－6）14 SAKURAクラブ

▼本宮市長杯（1回戦敗者戦）

萩江クラブ 20（11－9、9－9）18 屋代クラブ
かぶら女子ハンドボールクラブ 17（7－8、10－6）14 北海道SEVEN

▼決勝

萩江クラブ 16（8－6、8－8）14 かぶら女子ハンドボールクラブ

【最終順位】

優　勝　青森クラブPink
2 位　SAKURAクラブ
3 位　福島クラブ、REDS



スコアールーム③　第48回全日本実業団選手権大会

開催期日：2007年7月25日（水）～29日（日）
会　　場：岩手県・花巻市総合体育館

【男子】

▼予選トーナメント1回戦

ホンダ熊本 32（15－14、17－13）27 豊田合成
Honda 28（14－9、14－14）23 FC琉球
トヨタ車体 42（21－5、21－9）14 セントラル自動車
北陸電力 35（19－10、16－16）26 八光自動車

▼予選トーナメント2回戦

大同特殊鋼 36（17－7、19－11）18 ホンダ熊本
大崎電気 43（22－14、21－12）26 北陸電力
湧永製薬 35（17－17、18－15）32 トヨタ車体
トヨタ紡織九州 30（13－17、17－11）28 Honda

▼9～12位決定トーナメント1回戦

FC琉球 34（14－13、20－11）24 豊田合成
八光自動車 29（12－12、17－16）28 セントラル自動車

▼11－12位決定戦

豊田合成 31（14－17、17－10）27 セントラル自動車

▼9－10位決定戦

FC琉球 37（15－13、22－14）27 八光自動車

▼5～8位決定戦1回戦

Honda 29（16－8、13－12）20 ホンダ熊本
トヨタ車体 27（12－14、15－12）26 北陸電力

▼7－8位決定戦

北陸電力 38（16－17、22－15）32 ホンダ熊本

▼5－6位決定戦

Honda 24（9－11、15－8）19 トヨタ車体

▼決勝リーグ

大同特殊鋼 37（17－16、20－19）35 トヨタ紡織九州
湧永製薬 34（10－15、24－13）28 大崎電気
大同特殊鋼 36（21－18、15－18）36 大崎電気
湧永製薬 39（17－12、22－9）21 トヨタ紡織九州
大崎電気 44（20－19、24－19）38 トヨタ紡織九州
湧永製薬 37（16－13、21－21）34 大同特殊鋼

【最終順位】

優　勝　湧永製薬（6年ぶり16回目の優勝）
準優勝　大崎電気
第3位　大同特殊鋼
4位:トヨタ紡織九州／5位:Honda／6位:トヨタ車体／7位:北陸電力／8位:ホンダ熊本／9位:FC琉球／10位:八光自動車／11位:豊田合成／12位:セントラル自動車

【個人賞】

優秀監督賞　中山　剛（湧永製薬）
MVP　下川真良（湧永製薬）
ベストセブン　志水孝行（湧永製薬）
古家雅之（湧永製薬）
豊田賢治（大崎電気）
宮崎大輔（大崎電気）
岸川英誉（大同特殊鋼）
末松　誠（大同特殊鋼）
白　元喆（大同特殊鋼）
最優秀新人賞　新　建二（湧永製薬）

【女子】

▼予選リーグA組

オムロン 24（12－8、12－8）16 三重バイオレットアイリス
オムロン 41（20－14、21－10）24 広島メイプルレッズ
広島メイプルレッズ 31（15－9、16－15）24 三重バイオレットアイリス

▼予選リーグB組

ソニーセミコンダクタ九州 29（17－12、12－14）26 香川銀行
北國銀行 31（13－16、18－11）27 ソニーセミコンダクタ九州
北國銀行 28（13－10、15－9）19 香川銀行

▼準決勝

オムロン 35（18－16、17－13）29 ソニーセミコンダクタ九州
北國銀行 33（19－10、14－14）24 広島メイプルレッズ

▼5－6位決定戦

香川銀行 24（15－10、9－11）21 三重バイオレットアイリス

▼3位決定戦

ソニーセミコンダクタ九州 42（19－13、23－15）28 広島メイプルレッズ

▼決　勝

オムロン 24（10－11、14－10）21 北國銀行

【最終順位】

優　勝　オムロン（2年連続7回目の優勝）
第2位　北國銀行
第3位　ソニーセミコンダクタ九州
4位:広島メイプルレッズ／5位:香川銀行／6位:三重バイオレットアイリス

【個人賞】

優秀監督賞　黄　慶泳（オムロン）
MVP　勝田祥子（オムロン）
ベストセブン　佐久川ひとみ（オムロン）
水野恵子（オムロン）
洪　廷昊（オムロン）
小野澤香里（北國銀行）
上町史織（北國銀行）
田代ひろみ（北國銀行）
長野かづさ（ソニーセミコンダクタ九州）
最優秀新人賞　毛利久美（三重バイオレットアイリス）

協会だより

平成19年度第1回評議員会

日　時：平成19年6月9日（土）
　　　　13:00-16:00
場　所：東京体育館第一会議室
評議員現在数：53名
出席者（敬称略、名簿順）：
■評議員：齋藤　浩、谷藤勝美、今野正志、後藤義信、山下勝司、齋藤光男、塩川安賢、森川利昭、平塚一彦、竹内佳明、寺崎　修、中山圭三、井川邦彦、久保田龍治、村木啓作、夏目眞治、名倉昭弘、前川和三、藤本　昇、中村博幸、大原康昇、中井公人、塩崎信治、松原紀機、森江和吉、後山富士水、高野　修、松本育男、長尾輝夫、田中達男、武田末男、田中　守、大宮　泉、佐藤喜一、堀之内真澄、原田孝幸、齋藤節郎、河先　修　以上38名
■委任状提出評議員：小島収治、菅野　肇、奥山重雄、安田博之、上久保重次、内記英夫、庄司勝三、増田雅夫、末次　功、石井通義、本田娟一、新垣　健、三辻陽夫、川原繁樹、木野　実　以上15名
■理　事：渡邊佳英、市原則之、川上憲太、兼子　真、角　紘昭、江成元伸、伊藤宏幸、大橋則一、島田房二、田中　茂　以上10名
■監　事：川上整司、荘林康次、髙田日呂美　以上3名
■特任副会長：山下　泉、鶴保庸介　以上2名
■オブザーバー：半田忠史　以上1名
■事務局：茂木、床尾、花塚

以上、出席評議員38名、委任状提出評議員15名、出席理事10名、出席監事3名、特任副会長2名、オブザーバー1名、事務局3名

〈評議員会成立の確認〉
兼子総務担当より、本会議が財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第29条に定められた、評議員53名中38名出席、書面委任状15名にて3分2以上の出席があり定足数を満たしており、本評議員会が成立していることが報告された。議事進行に先立ち渡邉会長、川上専務、鶴保特任副会長より挨拶があった。次に議長の選出が行われ、寄附行為第28条、第3項に基づき、渡邉佳英会長が議長となることが報告された。

〈議事録署名人の選出〉
議長の渡邉会長より、議事録署名人の指名が行われ、議長渡邉佳英会長、後藤義信評議員、塩川安賢評議員、川上憲太専務理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項

1．平成18年度事業報告書（案）について
川上専務理事より、各事業毎に概略が説明された。中学生の個人登録は来年導入するよう今年は情宣する。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成18年度決算書（案）について
兼子会計担当常務理事より、平成18年度の決算について説明がなされた。事業活動収入合計438,694,271円、事業活動支出合計465,051,697円、他積立金取り崩し収入、積立金支出、予備費支出があり、その結果次期繰越額59,765,230円となった。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成18年度第一次補正予算（案）について
兼子会計担当常務理事より、平成18年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成19年度第一次補正案について説明がなされた。補正後、事業活動収入合計463,179,500円、事業活動支出合計494,023,940円、積立金取り崩し収入5,5000,000円、積立金支出5,000,000円、予備費支出2,000,000円、当期収支差額17,155,560円となり、次期繰越収支差額は76,920,790円となることが説明された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．平成19年度執行部及び日本協会組織図について
川上専務理事より、新常務理事を含め常務理事が紹介された。
兼子常務理事は総務本部長及び事務局長、伊藤新常務理事は、過去に1年間の事務局長を経験しており、総務副本部長をお願いする。角常務理事には引続き、普及指導を担当して貰い、特に少年チームの発展に力を入れる。江成常務理事も引続き、競技運営を担当。島田常務理事も引続き、競技運営審判部を担当。大橋新常務理事には、マーケティング副本部長を担当。田中新常務理事には、国際担当および日本リーグGM（委員長）として活躍して貰う。
監事については3名とも新監事となり、川上監事には、総務、財務、強化全般、荘林監事には、国際およびマーケティングを、高田監事に普及、競技担当をお願いしている。

2．平成19年度会議日程及び平成20年度会議日程粗案について
兼子事務局長より、報告された。平成19年度は、常務理事会を減らし、会議は午後の開催とした。

3．平成19年度国際・国内・ブロック大会日程について
江成常務理事より、説明された。

4．北京オリンピック男子アジア予選2007豊田市開催について
江成常務理事より、報告があり、スカイホール豊田に現地事務局を設置し常勤者を置いていることが説明された。
村木評議員（愛知県）より、地元として努力はしているが、全国からも是非応援にお越し頂き、ご支援も願いたいと挨拶があった。

5．強化（ナショナルスタッフ・強化指定選手など）について
田中常務理事より、蒲生強化本部長の代理で報告がされた。男子強化選手に2名の追加をした。また、女子代表には、海外移籍選手も含めて編成されていることが報告された。

6．普及関係（平成19年度第10回ハンドボール研究集会他）について
角常務理事より、報告された。

7．平成19年度競技運営に関する通達について
江成常務理事より、外国籍選手のゲームエントリー、マッチバイザーの注意事項などが報告された。

8．日本リーグについて
田中常務理事より、報告された。今期のプレーオフは、オリンピック世界最終予選の関係から、男女別開催となると説明された。市原副会長より、関連して、トップリーグ連携機構ではボール・フェスタを昨年は和歌山、4月には豊田で開催した。今後、石川、広島、札幌または帯広を予定しており、各県協会の皆さまへ、宜しくお願いする。

9．がんばれハンドボール10万人会について
伊藤常務理事より、報告された。県によってはゼロのところがある。各県協会で検討して頂きたい。今後、中野参事と連携して提案していく。

10．その他
1）半田車椅子連盟理事長より、車椅子大会を今後とも宜しく願う。
2）渡邉会長より、ＩＨＦの国際会議でも車椅子ハンドボールをパラリンピックの種目にしよう、という動きがある。
3）ナショナルトレセンについて、市原副会長よりレーニングセンターは1月よりハンドボールのコートも利用可能。ぜひご利用願う。

平成19年度第1回理事会

日　時：平成19年6月16日（土）
　　　　13:00～16:00
場　所：岸記念体育会館　504・505号室
出席者（敬称略、名簿順）：
■理　事：渡邊佳英、市原則之、川上憲太、西窪勝広、兼子　真、角　紘昭、蒲生晴明、江成元伸、大橋則一、島田房二、田中　茂、大畑孝広、福地賢介、森安昭雄、高山重雄、奥田政俊、宮元章次
■監　事：川上整司、荘林康次、髙田日呂美

■特任副会長：山下　泉、竹野奉昭
■参　事：小西博喜、武田節夫、杉本眞一、西山逸成、中野利一、上原信子、近久紀人、出原　理、笹倉清則、本間誠章、小山哲央、大塚文雄、志々場修二、越田義昭、大村　久（稲生茂代理）、武田末男（四国代理）
■欠席者(敬称略､名簿順)：理事：伊藤宏幸(委任状提出有り)
■事務局：茂木、床尾

以上、出席理事17名、委任状出席1名、出席監事3名、出席特任副会長2名、出席参事14名、参事代理2名、事務局2名

議事録署名人；議長、川上憲太専務理事、角　紘昭常務理事、大畑孝広理事

〈理事会成立の確認〉

定刻に開会し、兼子総務担当常務理事より、本会議が財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条に定められた、理事現在数18名中委任状出席を含め18名の出席にて3分2以上の出席があり定足数を満たしており、本理事会が成立していることが報告された。

次に議長の選出が行われ、寄附行為第25条、第3項に基づき、会長が議長となるが、会長が所用のため若干遅れるとの連絡があるので、寄附行為第18条第2項に基づき、市原副会長がこの間議長代理を務めることが報告された。市原副会長、川上専務理事より挨拶があった。

〈議事録署名人の選出〉

続いて、市原議長代理より議事録署名人の指名が行われ、議長、川上憲太専務理事、角　紘昭常務理事、大畑孝広理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項の前に川上専務理事より、日本協会組織の報告がされた。

- 基本的なマーケティングは専務理事が兼務
- 課題の推進と各本部との連絡
- 事務局の役割分担

審議事項

1．平成18年度事業報告書（案）について

川上専務理事より、平成18年度の事業について、1）普及指導、2）競技、3）国際、4）審判、5）強化、6）機関誌、7）企画広報、8）財務会計、9）日本リーグ、10）総務、11）10万人会、12）マーケティングの順に概要が説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成17年度決算書（案）について

兼子総務担当常務理事より、平成18年度の決算について説明された。

市原副会長より、法人の会計が変わったので、体育系、事業系で分からない方がいるかもしれない。法人の不祥事により、会計処理が改正された。そのため、分かりやすくするために概要書、概要説明書を作成した。

川上監事より6月5日に監事3名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告された。また、川上監事より、我々監事3名が日本協会の監査をした結果、全て合致した。理事の職務の執行については、3名ともに新任のため報告ができないが、今後積極的に監査を行っていく。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成19年度第一次補正予算（案）について

兼子総務担当常務理事より、平成18年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成19年度第一次補正案について説明がなされた。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．平成18年度日本協会表彰者について

兼子総務担当常務理事より、平成18年度の日本協会表彰者について、加盟団体及び日本協会からの推薦者一覧の説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．その他

兼子事務局長より、表彰に関連し、日体協スポーツ指導者について、村松参事に確認のところ数名の候補者あり。例年推薦をしていないので、今年度は推薦書を提出することについて、表彰委員会に一任して頂きたい。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．平成19年度執行部及び日本協会組織図について

2．平成19年度会議日程及び平成20年度会議日程粗案について

兼子事務局長と川上専務理事より会議日程について報告された。

川上専務理事より、本部長会議でよいものは、本部長会扱いとし常務理事会を減らした。

市原副会長より、本部長会の働きを高めるため、常務理事会から移行したものである。2月は大切な会議であるので欠席者のないよう要望された。

3．平成19年度国際・国内・ブロック大会日程について

4．北京オリンピック男子アジア予選2007豊田市開催について

5．トップレフェリー研修会（ジャパンカップ豊田大会時）について

市原副会長より3，4，5はまとめて、江成常務理事より説明することが指示された。江成常務理事より、平成19年度の国際・国内・ブロック大会について概略説明があった。また、9月に豊田市で開催される北京オリンピック男子アジア予選について、説明がなされた。加盟団体には、チーム応援および開催支援金の協力が依頼された。

島田常務理事より、平成19年度の全国大会審判員名簿について説明された。インカレは変更の可能性あり。ペアで認められていないペアがいたので、ペアで登録された者のみとする。ジャパンカップ開催時に行うトップレフェリー研修会案内は、ホームページからダウンロードできるようにした。

6．強化（ナショナルスタッフ・強化指定選手など）について

7．NTSセンター・ブロックトレーニング旅費基準について

市原副会長より、6，7はまとめて蒲生常務理事より報告が依頼された。

蒲生常務理事より、中国蘇州大会では、3戦全敗だったが、内容的にはディフェンス3－2－1は完成しつつあり、失点はかなり防げる。女子は順調である。

また、カザフスタン、豊田でのオリンピック予選では、ＩＨＦより役員に来てもらいフェアな試合を求める。

兼子事務局長より、ＮＴＳ交通費の精算について、電車代での精算が基本だが、車で複数名が同乗してくる場合があり、現規程のままの計算方法では､払いすぎていると思われ、内規で、車の利用を認めて、交通費の計算における根拠数字を明確にした基準を示し対応することが報告された。

8．国際（ＩＨＦ総会、ＥＡＨＦ打合せなど）について

蒲生常務理事より、用いて報告された。ＩＨＦ総会では、ＥＨＦによる動議は否決され、ＷＣは2年おきのままとする。国際会議でのロビー活動の必要性を感じた。北京オリンピック出場のためＩＨＦ監視を目的とする招待を市原副会長より各プレジデントに取り付けている。

9．普及関係（平成19年度第10回ハンドボール研究集会他）について

角常務理事より、本年のハンドボール研究集会について説明があった。

10．女性委員会アンケート結果について

上原参事より、昨年行ったアンケートの集計結果について報告された。

11．平成19年度競技運営に関する通達について

江成常務理事より、競技事項の通達と、試合においては役員識別ＩＤカードと共に、責任者は責任者マークを必ず付けることが説明された。

12．ドーピング防止に関するガイドラインについて

西山参事より、ドーピング防止について報告された。

13．日本リーグについて

田中常務理事より報告された。ジャパンカップ2007は、豊田大会は東地区選抜チーム、熊本大会は西地区選抜チームで臨むことが説明された。

14．がんばれハンドボール10万人会について

中野参事より説明された。

15．その他

小山参事より、マスターズ大会について説明があった。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」7月入会・継続会員

【北海道】畑中　裕　**【岩手】**上川正二　**【宮城】**千田文彦、加藤宏之　**【埼玉】**寺尾嗣子、石井常子、沼田彩友美、中野慶子　**【東京】**木津喜弘倫、白川　勉、鈴木明美、河内鋭雄、松本一材、安藤純光　**【山梨】**齋藤　實　**【富山】**藤井清勝　**【愛知】**安藤　孝、山田壮八、金川康夫、岩井良太　**【岐阜】**森川俊章　**【大阪】**宮崎敬子、安田喜美子、伊藤慎吾、戸谷克蔵、里村静俊　**【奈良】**的場祐子、奥山美樹　**【福岡】**柏木　晃　**【長崎】**石井通義、石井禰生　**【熊本】**中川光明　**【鹿児島】**井料たか子

【9月の行事予定】

【大会】……………………………………………………………………

9月1日(土)～6日(木)　愛知県・豊田市
2008北京オリンピック男子アジア予選

9月22日(土)～　各地
第32回日本リーグ

〈平成19年版競技規則必携について〉

平成19年版競技規則必携が発行されました。
価格は、1部1,575円(税込、送料無料)。10部以上の場合は、1部1,470円(税込、送料無料)です。

【申し込み方法】
購入の申し込みは、(財)日本ハンドボール協会事務局へ現金書留または郵便振替にてお願いします。

■ 郵便振替をご利用の場合
「振替口座」00160-4-58348　「加入者名」日本ハンドボール協会
＊ 郵便局備え付けの「払込取扱票」をご利用ください。通信欄には、物品名、個数、料金計算を記入し、ご依頼人欄(送付先)ももれなく記入してください。

■ 申し込み・問い合わせ先
財団法人日本ハンドボール協会事務局
〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育会館内
TEL　03-3481-2361　　FAX　03-3481-2367

HAND BALL CONTENTS Sep.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

asics®
sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT

THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S

THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



JAPAN
JOC オフィシャルパートナー

株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四八三号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十九年八月二十六日印刷
平成十九年九月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六〇
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円